

# 静岡県水田農業の現状



令和5年3月

静岡県 経済産業部 農業局 農芸振興課

# 目 次

## 第1 静岡県水田農業振興基本計画

静岡県水田農業振興基本計画	1
1 基本計画の位置づけ	
2 静岡県水田農業の目指す姿	
3 静岡県水田農業振興基本計画（令和4年度～令和7年度）の要旨	
I 新たな消費の創出	3
1 ブランド化の推進	
2 6次産業化等の推進	
3 今後の方向	
II 生産力の強化	9
1 水田の担い手への集積と大区画化・汎用化	
2 技術の開発と普及	
3 水田の有効利用の推進	
4 今後の方向	

## 第2 静岡県水田農業の現状

1 水田農業の状況	
(1) 米穀等生産状況	16
(2) 水稲生産状況	17
ア 水稲生産状況の推移	
イ 農林事務所管内別の水稲生産状況	
ウ 市町別の水稲生産状況	
(3) 水稲品種構成	20
ア 水稲品種別作付面積	
イ 農林事務所管内別の水稲品種別作付面積	
(4) 水稲被害状況	22
(5) 県内農業における稲作	23
ア 農業産出額	
イ 相対取引価格	
ウ 販売農家に占める稲作付農家の比率	
(6) 経営規模	24
ア 田の面積規模別経営体数	
イ 田の経営耕地面積規模別経営体数（農林別）	
ウ 田の経営耕地面積規模別面積（農林別）	
エ 田の経営耕地面積規模別経営体数（市町別）	
(7) 土地条件	26
ア 耕地面積及び拡張・かい廃面積	
イ 農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率（田）	
ウ 水田区画整備状況	
(8) 稲作経営統計	27
ア 水稲作収益性	
イ 水稲作生産費	
ウ 水稲作作業別の労働時間	
(9) 農地の流動化と作業受委託	29
ア 地目別の利用権設定面積及び利用権設置率（農林別）	
イ 水稲作作業委託農家数	
ウ 水稲作作業受託農家数	
エ 水稲作作業受託面積	
オ 主要農業機械所有台数	

<b>2 米の農産物検査状況</b>	
(1) 種類別農産物検査状況	31
(2) 農産物検査結果(玄米)	31
(3) 銘柄別農産物検査結果	32
(4) 農産物検査を行う産地品種銘柄	33
<b>3 水稻種子生産状況</b>	
(1) 水稻採種ほ設置面積	34
(2) 水稻種子確保状況	34
(3) 水稻種子配布実績	35
(4) 水稻奨励品種の改廃	35
<b>4 麦・大豆生産の状況</b>	
(1) 麦・大豆の作付面積及び収穫量	36
(2) 小麦生産状況	36
(3) 大豆生産状況	36
<b>5 主要農作物奨励品種</b>	
(1) 水稻	37
(2) 小麦	38
(3) 大豆	38

### 第3 参考資料

<b>1 令和元年産水稻の生育概況</b>	
(1) コシヒカリの早期栽培	39
(2) 普通期栽培	40
(3) 病害虫の発生状況	42
(4) 稲作期間の気象概況	44
<b>2 全国の稲生産状況</b>	
(1) 水稻の生産状況	46
(2) 令和元年産都道府県別水稻うるち品種別作付状況	47
<b>3 米の需給状況</b>	
(1) 需給の推移(全国)	48
(2) 需給状況(全国)	49
(3) 需給状況(静岡県)	51
(4) 消費量の推移(全国)	52
<b>4 令和元年度経営所得安定対策等交付実績</b>	53
<b>5 お米日本一コンテストinしずおかの開催</b>	
(1) 第18回お米日本一コンテストinしずおか	54
(2) お米日本一コンテストinしずおか開催概要	55
(3) 上位入賞者	56
<b>6 「にじのきらめき」の来歴及び特性の概要</b>	57
<b>7 「令和誉富士」の来歴及び特性の概要</b>	59

# 第1 静岡県水田農業振興基本計画

## 1 基本計画の位置づけ

- ・ 「静岡県経済産業ビジョン2022～2025」の下位計画とする。
- ・ 本県水田農業の概ね4年間の基本方針、政策体系を掲げる。
- ・ 令和7年度までの具体的な施策、目標を示す。

## 2 静岡県水田農業の目指す姿

本県には、現在約21,400haの水田があり、ここで生産される米、麦、大豆など約8万トンの穀類・豆類はほぼ全量が県内で消費され、県民の豊かな食生活実現の一端を担っている。

また、適正に管理された水田は美しい景観の形成、気候緩和などの多面的機能により県民生活の質の向上に貢献している。

このような水田の機能を将来にわたり維持するため、概ね4年後の本県水田農業の目指す姿および具体的な目標指標を以下のとおりとする。

### (1) 目指す姿

- ・ 県民の多様な需要に応じた米、麦などが生産され、県民は地元の高品質な農産物やその加工品を享受している。
- ・ 水田農業について、高い競争力を持った経営体を中心となり、多様な担い手とともに地域の水田を有効に活用し、高い生産力で付加価値の高い産物を生み出す農業構造が実現されている。
- ・ 水田が有効に活用され、景観形成、洪水調整、気候緩和などの多面的機能が発揮されている。

### (2) 主な目標指標

ア 農業産出額、水田における高収益作物作付面積 (単位：億円、ha)

	実績			目標
	令和元年	令和2年	令和3年	令和7年
農業産出額 (米、麦類、豆類)	198	172	162	185
高収益作物栽培面積 (水田)	469	624	860	900

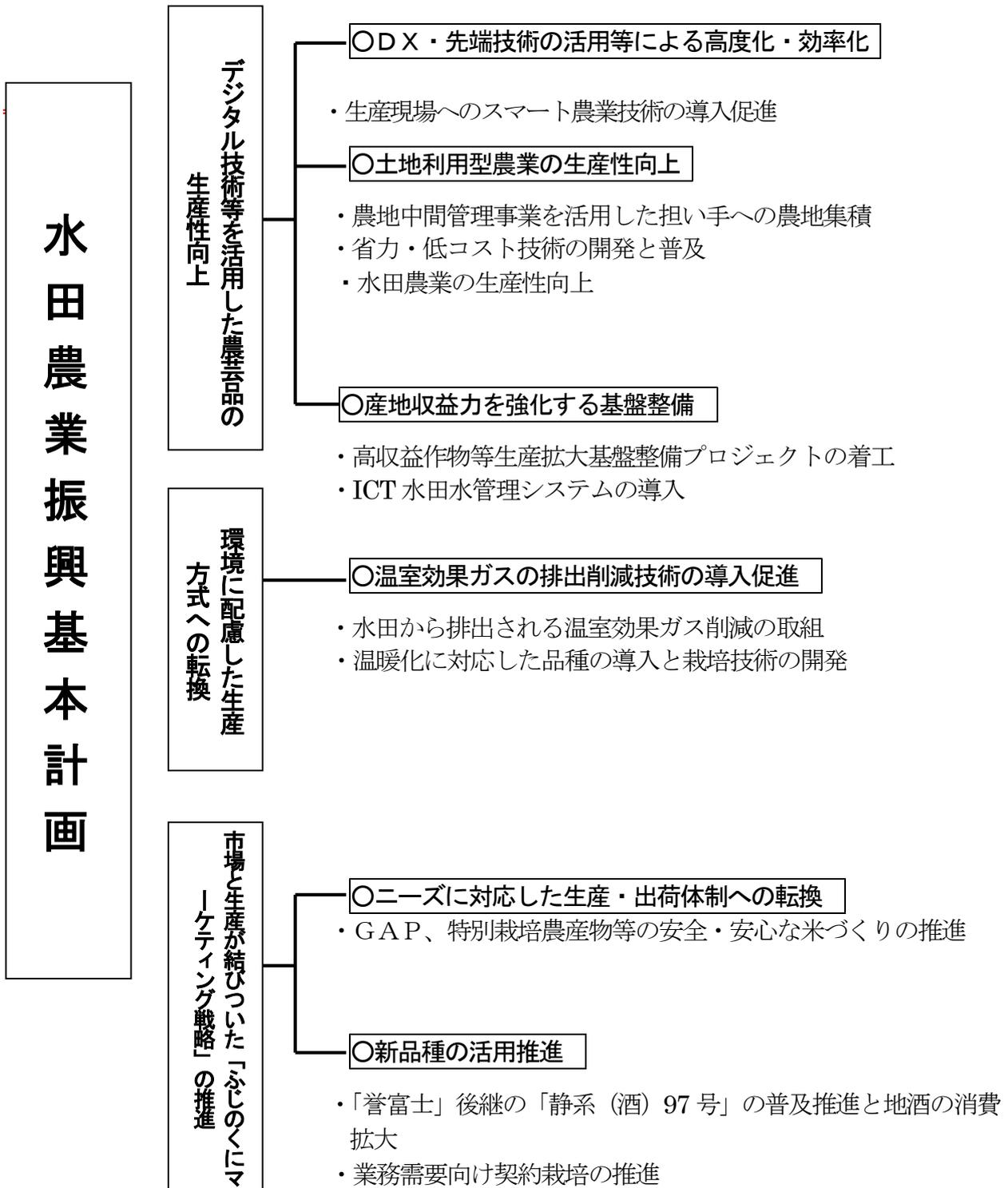
イ 水田の耕地利用率

	実績			目標
	令和元年	令和2年	令和3年	令和7年
水田の耕地利用率 (%)	93.9	94.3	94.2	100
水田作付延べ面積 (ha)	21,500	21,400	21,200	22,500
水田面積 (ha)	22,900	22,700	22,500	22,500

ウ ビジネス経営体数

	実績			目標
	令和元年	令和2年	令和3年	令和7年
ビジネス経営体数 (経営体)	17	17	18	30

### 3 静岡県水田農業振興基本計画施策体系



# I 新たな消費の創出

## 1 ブランド化の推進

【目標】	【2021 現状】	【2022 実績】	【2025 目標】
家計調査による米の購入に関する全国順位		(H30～R3 の平均)	
購入金額		静岡市 2 位、浜松市 6 位	全国 1 位
購入数量		静岡市 2 位、浜松市 6 位	

県民の多様な需要に応えるとともに、県産米の利用を促進するため、コンテストやセミナーを開催した。

食の安全に対する信頼を高めるため、農業者自らが農作業の点検、記録、評価に取り組むGAP（農業生産工程管理）の推進を図った。

### ○ 推進事項とその成果

#### (1) お米日本ーコンテスト等を活用した売れる米づくりの推進

##### ア お米日本ーコンテスト最終審査会の開催

良食味米産地の育成、消費拡大を目的に「第 20 回お米日本ーコンテスト in しずおか」を開催した。

33 道府県から 539 点の出品があり、小山町の小見栄益彦氏の「歓喜の風」が「最高金賞」と「静岡県知事賞」を受賞した。

産地では、受賞結果を活用した販売促進が行われている。



グランシップで最終審査を開催

##### イ こだわりの米産地の育成

こだわりの米とは、県内各地で取組んでいる特別栽培農産物や食味にこだわった栽培方法などにより一定の評価を得ている地域ブランド米を、県産米の牽引役として位置づけているものである。

こだわりの米の生産数量は、平成 26 年以降増加し続けており、令和 2 年には生産数量が 2,000t を超えた。米の消費量は、消費志向の変化などにより、年々減少基調にあるため、ブランド化等による産地ごとの差別化を行い、消費者に選ばれる米を生産することが必要である。

## こだわりの米取組事例

商品名	品種	特徴と今後の見通し
J A おおいがわ産 金芽米	きぬむすめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>東洋ライス独自の精米技術を利用した栄養価の高い高付加価値米</li> <li>2019年の生産量が400トンに達し、J A おおいがわ管内に金芽米製造のための精米工場を設け、原料生産から加工、販売までを一貫して行う。</li> </ul>
するがの極	きぬむすめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>J A なんすんが定めた厳格な成分数値基準を達成した1等米だけを認定</li> <li>2026年に出荷量400トン、1億円の販売を目指す。</li> </ul>
静岡そだち	コシヒカリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>食味値83点以上の静岡県産コシヒカリを厳選した新ブランド</li> <li>静岡県産コシヒカリの約7%のみが認定される。</li> </ul>

### ウ 「コシヒカリ」に次ぐブランド品種への取組

生産者の普及指導の中で、「きぬむすめ」と「にこまる」の導入を推進し、更なる良食味・高品質米の生産を図っている。また、J A や産地と連携し、試食販売会やネットショッピング、ふるさと納税の返礼品や贈答品等への活用を通じて、県民への一層の浸透を図り、県内消費者に選択してもらえるブランド米として消費拡大を進めている。

一般財団法人日本穀物検定協会が実施する食味ランキングにおいて、本県産（西部地域）「にこまる」は、平成30年から5年連続で、最高評価の「特A」を取得している。また、本県産「きぬむすめ」は、令和元年度、令和2年度の2年連続で「特A」を取得した。

一方で、静岡県産のお米の主力品種である「コシヒカリ」については、高いレベルで食味値の下限値を設定（食味値83点以上）し、食味のよさを追求した、静岡県産コシヒカリの新たなブランド「静岡そだち」を経済連が設立した。



新ブランド「静岡そだち」  
(左：パンフ、右：袋)

「お米が美味しい日本のお弁当」

## エ しずおか食セレクション認定商品について

静岡県ならではの特徴を備え品質、安全性が担保され、一定規模以上の販売実績を有する農林水産物を認定する「しずおか食セレクション」に、本県産の米としては、伊豆市特別栽培米の「伊豆の恵」（伊豆の国農業協同組合）、「このはなの恵み」（JA 御殿場エコ栽培米出荷組合）と「ふくほまれ」（ふくろいブランド米開発販売促進協議会）の3商品が認定されている。

### (2) GAP、特別栽培農産物等の安全・安心な米づくりの推進

【目標】	【2021 現状】	【2022 実績】	【2025 目標】
GAP 認証取得農場数	75 農場	→ 81 農場	→ 90 農場

「GAP 認証」の取得に取り組む農業者や産地への支援を行い、令和3年度までに ASIAGAP、JGAP はそれぞれ2農場、しずおか農林水産物認証は79農場が認証を取得している。

#### J・ASIAGAP 取得者一覧（米）

取得者名称	住所	品目	経営体数	備考
ハラダ製茶農園	島田市	粳・玄米	1	ASIAGAP
静岡県立磐田農業高等学校一言農場	磐田市	粳・玄米	1	JGAP

#### しずおか農林水産物認証取得者一覧（米）

取得者名称	住所	品目	経営体数	取得年度
加茂 博子	浜松市	米	1	平成24年
有限会社 芹澤ライスセンター	函南町	精米	1	平成24年
JA 御殿場エコ栽培米出荷組合	御殿場市	玄米	59	平成24年
森町究極のコシヒカリ研究会	森町	精米	6	平成27年
農業生産法人（有）古宿ファーム	小山町	精米	1	平成28年
株式会社 農健	磐田市	精米	1	平成28年
（有）山本耕業	牧之原市	米	1	令和元年
農業生産法人 のずえ農園（株）	浜松市	米	1	令和元年
芹澤 眞男	函南町	米	1	令和元年
杉本 一詩	焼津市	米	1	令和2年
（株）榮 桑原 成有	浜松市	米	1	令和3年
鈴木 勝之	浜松市	米	1	令和3年
（株）富士山白糸ファーム	富士宮市	米	1	令和3年
かつまたライスファーム	御殿場市	米	1	令和4年
石井 隆	沼津市	米	1	令和4年
（株）堀野ライスファーム	浜松市	米	1	令和4年

## 2 6次産業化等の推進

【目標】	【2021 現状】	【2022 実績】	【2025 目標】
「誉富士」の生産量	生産量 234 t 醸造量 約 350kL	→ 2022 年度が生産 の最終年度	—
「静系（酒）97号」 の生産量	—	—	生産量 320t 醸造量 約 480kL

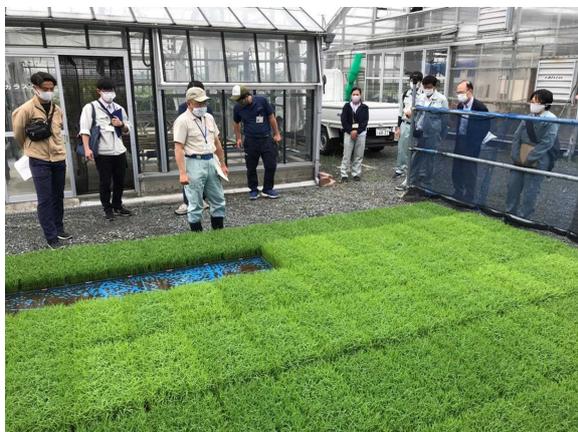
### ○推進事項とその成果

#### （1）「誉富士」の栽培面積、生産量の推移

平成10年に「山田錦」の種籾にガンマ線を照射し、突然変異育種法によって農林技術研究所が選抜した、静岡県初のオリジナル酒造好適米品種「誉富士」は、平成17年から現地栽培が開始され、年々面積が拡大してきた。しかし近年は気象災害等の影響により、収量が少なく醸造会社からの需要を下回る生産量となっている。

令和2年度にトビイロウンカ等の病害虫の多発により生産量が大きく落ち込んだため、指導者向けの栽培技術研修の開催や、防除対策の周知等により安定化を図っている。

また農林技術研究所では「誉富士」の収量性を改善した品種の育成に取り組み、栽培特性及び酒質ともに優れる「令和誉富士」を後継品種に決定した。また、令和4年3月に奨励品種決定審査会で「令和誉富士」を奨励品種に採用した。「誉富士」については、令和5年3月末日をもって奨励品種廃止となった。



#### 「誉富士」の栽培面積、生産量の推移

年度	H20	H23	H30	R1	R2	R3	R4
栽培面積(ha)	14.9	22.8	68.7	68.8	73.0	64.0	78.0
生産量 (t)	55.5	71.6	215.0	221.7	167.6	225.3	224.4

注) 令和4年産は4年12月末時点

「誉富士」の生産状況（令和4年産）

J A名	ふじ伊豆	しみず	大井川	ハイナン	遠州夢咲	遠州中央	とびあ 浜松	計
農家戸数(戸)	6	0	18	1	3	4	2	34
面積 (ha)	3.1	0	46.5	1.0	5.2	7.1	8.0	70.9
生産量 (t)	7.4	0	143.2	2.1	18.1	26.3	27.3	224.4

「誉富士」の醸造会社（令和4年産）

万大醸造（伊豆市）	高嶋酒造（沼津市）	根上酒造店（御殿場市）
富士正酒造（富士宮市）	富士高砂酒造（富士宮市）	牧野酒造（富士宮市）
富士錦酒造（富士宮市）	神沢川酒造場（静岡市）	英君酒造（静岡市）
三和酒造（静岡市）	萩錦酒造（静岡市）	駿河酒造場（静岡市）
静岡平喜酒造（静岡市）	君盃酒造（静岡市）	磯自慢酒造（焼津市）
初亀醸造（藤枝市）	杉井酒造（藤枝市）	志太泉酒造（藤枝市）
大村屋酒造場（島田市）	森本酒造（菊川市）	土井酒造場（掛川市）
山中酒造（掛川市）	千寿酒造（磐田市）	花の舞酒造（浜松市）
浜松酒造（浜松市）		

「誉富士」の地酒醸造量の推移

（単位：kL、%）

年度	H20	H23	H29	H30	R1	R2	R3
県酒造組合醸造量	3,817	3,322	3,802	3,803	3,125	3,307	3,221
「誉富士」の地酒醸造量	83	107	351	314	332	251	224
「誉富士」の地酒の割合	2.2	3.2	9.2	8.3	10.6	7.6	10.2

注）「誉富士」の地酒醸造量は「誉富士」生産量から推計

（資料：静岡県酒造組合）

（2）酒米生産者、醸造者、販売業者が一体となった地酒「誉富士」の消費拡大

「誉富士」で醸造された地酒の需要を拡大するため、平成21年度に設立した「静岡県誉富士普及推進協議会」によるPRイベントの開催や、県酒造組合が開催するイベントへのブース出展などで、ファン層の開拓に取り組んでいる。



令和5年2月23日（土）ふじさんの日

「聴いて楽しい日本酒のセミナー&県内蔵元の「誉富士」のお酒が全て楽しめるディナーパーティー」

### (3) 業務用需要向け品種の生産の推進

主食用米の年間消費量（一人年間当り消費量）はピークの昭和 37(1962)年度の 118.3kg からほぼ一貫して減少しており、令和 3 (2021)年度は 51.5kg となっている。このような状況の中、外食・中食向けの業務用米は堅調な需要が期待されていたが、令和 2 年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響による需要減少に見舞われた（令和 3 年度食料・農業・農村白書より）。今後は感染症収束により需要は回復することを見越して業務用米の推進は継続するが、状況を注視し方針を検討していく。

本県の業務需要に適する多収米については、農林技術研究所における品種選定試験の実施や、経済連等の関係機関と連携した現地適応性について検討を行っている。中でも「にじのきらめき」は、多肥栽培でも倒伏しにくく、収量性・耐病性・食味に優れる品種として高い評価を得ており、令和 2 年度に奨励品種に採用した。

#### 主な多収米の特徴

品種名	交配	主な特徴
秋はるか	西海 265 号×泉 2507	晩生、多収、良食味、高温登熟耐性、縞葉枯病抵抗性、いもち病に強い
にじのきらめき	なつほのか×北陸 223 号	早生、多収、良食味、高温登熟耐性、草丈短い、縞葉枯病抵抗性、いもち病に強い
歓喜の風	ふくいずみ×あきさかり	早生、多収、良食味、高温登熟耐性、倒伏に強い

### (4) 令和 3 年度農業産出額の品目別分析について

令和 3 年度の全国の農業産出額は、令和 2 年度に引き続き 9 兆円を下回る結果となった。米については、コロナ禍による外食の米需要の減少により販売価格が低下したことから、1 兆 3,699 億円（前年比 84.4%）となった。

本県の令和 3 年度の米の産出額は前年比 94%となる 162 億円であった。作付面積は 15.300ha(前年比 98.7%)であった。作況指数は病虫害多発の影響により 97 と令和 2 年の 92 より回復した。

## 3 今後の方向

- ① コロナ禍収束による外食需要の回復を見越し、多収性業務用品種の作付を引き続き推進する。
- ② 「令和誉富士」の地酒の消費拡大のため、小売店や酒造会社等と連携した販売促進活動を行う。また「令和誉富士」の安定供給のため、生産者の生産活動を支援する。

## Ⅱ 生産力の強化

### 1 水田の担い手への集積と大区画化・汎用化

【指標】	【2021 現状】	【2022 実績】	【2025 目標】
高収益作物等生産拡大基盤整備プロジェクト着工面積	405 ha	→ 530 ha	⇒ 980ha
ICT水田水管理システムの導入に着手した面積	5 ha	→ 102 ha	⇒ 350ha

#### \*農地計画課集計

大規模経営体の効率的な管理が可能となるよう、面的な集積や畦畔除去等の簡易整備によるほ場の大区画化を進めるとともに、露地野菜等の高収益作物の生産を拡大するため、暗渠排水整備等により、水田の汎用化・畑地化を図っていく。

### ○ 推進事項とその成果

#### (1) 農地中間管理事業を活用した水田の担い手への農地集積

平成30年度から実施している水田経営の競争力強化の取組として、令和2年度までに大区画化・汎用化に向けた基盤整備を累計547haで実施している。

また、農地中間管理事業などを活用し、面的な集積を進め、令和2年3月1日時点での中間管理機構による水稻の貸出面積は1,621haとなっている。

#### (2) 地下水位制御システム等の導入による水田の汎用化

水田の排水性を高め、地下水位を調節する機能を持つ地下水位制御システムの導入と活用を推進している。令和4年度までに御殿場市0.2ha、菊川市5.0ha、掛川市26.4ha、森町79.8ha、袋井市2.3haで導入された。

地下水位制御システムの導入状況（市町別）

（単位：ha）

	H23～28	29	30	R1	R2	R3	R4	計
御殿場市	0.2							0.2
菊川市	5.0							5.0
掛川市	24.2			1.0	1.0		0.2	26.4
森町	11.3	11.8	2.3	14.0	20.0	2.4	2.4	79.8
袋井市	2.3							2.3
計	43.0	11.8	2.3	15.0	21.0	18.0	2.6	113.7

### 2 技術の開発と普及

（単位：円）

	H30	R元	R2	R3
水稻生産費 (60kg 当たり)	23,616	18,920	18,994	20,008

本県は、経営規模 1 ha 以下の経営体が水田農業経営体の約 9 割を占めている（2020 年農林業センサスより）ことから、大規模化・低コスト化が進みにくく、10a 当たりの水稲作生産費は全国と比較して高コストになっている。

平成 30 年からの米政策改革を契機に、経営規模の一層の拡大や、生産コストの低減を図るため、直播栽培や通信情報技術（ICT）を活用した水管理システムの現地実証を進めている。

また、近年は「キヌヒカリ」や「コシヒカリ」等、早生品種の出穂～登熟期が高温となることが多く、白未熟粒の発生により等級を下げる原因となっている。この夏期の高温に対応するため、高温耐性品種の「きぬむすめ」、「にこまる」、「にじのきらめき」の栽培技術情報を提供し、普及を推進している。

令和 3 年は、世界的なエネルギー価格の上昇に加え、ロシアによるウクライナ侵略などの影響により、化学肥料等の価格が大幅に上昇したため、水稲生産費が増加した。

## ○ 推進事項とその成果

### （1）省力・低コスト技術の開発と普及

#### ア 直播栽培

本県では、稲発酵粗飼料用稲（WCS 用稲）を中心に直播栽培の取組が広まっており、令和 3 年度の直播栽培面積は 177.1ha と、前年度から 31.1ha (21.3%) 増加した。次年度からはさらに新規の生産者が直播栽培に取り組む見込みである。

県内の直播栽培の普及状況

(単位：ha)

区 分	H22	H29	H30	R1	R2	R3
乾田直播	1.4	57.9	60.2	23.1	8.0	31.0
V溝乾田直播	1.4	47.5	48.1	8.6	8.0	23.0
湛水直播	20.7	52.3	115.5	162.3	138.0	146.1
散播	2.4	16.0	7.0	7.2	0.0	6.8
ヘリコプター等	1.4	5.0	2.2	2.0	0.0	6.4
乗用播種機	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0
背負式動散機他	1.0	5.0	5.0	5.0	0.0	0.4
条播	11.3	0.5	100.5	147.4	138.0	138.5
点播	7.0	35.8	8.0	7.7	0.0	0.8
計	22.1	110.2	175.7	185.4	146.0	177.1

#### イ 自動水管理システム

多くの作業が機械化されている水稲栽培において、水管理作業は機械化・省力化が進んでおらず、規模拡大の阻害要因となっている。そこで県東部では、御殿場農協、メーカー、農林事務所が連携して自動水管理システム（製品名：田門）を開発し、普及を進めている。タイマーで入水/止水時間を設定できるとともに、水位センサーにより自動で水門を閉める機能を有しており、水管理作業の省力化が可能である。また、北駿地域は水田用水が富士山からの湧水のため温度が低く、稲の生育を遅らせてしまう課題があったが、用水と水田湛水との温度差が最も少ない

深夜に水を入れて成育遅延を回避する、という篤農家技術の再現がシステムの開発によって容易になり、生産性の向上も期待されている。



自動水管理システム導入台数  
(高根地区の集計値)

	H30	R1	R2	R3
台数(台)	178	243 (+65)	272 (+29)	272 (+0)

北駿で普及が進む自動水管理システム (田門)

### ウ 農業用マルチローター

播種や肥料散布、病害虫防除等に利用されており、1 ha の作業を約 15 分程度で実施可能。各メーカーにおいて、生育センシングや自動飛行技術などの開発が進められており、今後のさらなる利用や普及の拡大が期待される。

静岡県内では、大規模農家の多い中遠地域で主に普及が進んでいる。また、ヤマハ発動機及び JA、生産者が連携し、中遠、西部地区でマルチローターを用いた直播や肥料散布、作業性の確認及び生育センシング等の試験を実施している。

## (2) 温暖化に対応した品種導入と栽培技術の開発

平成 23 年度に高温耐性品種の「にこまる」を奨励品種に採用した。また平成 24 年度には、高温による白未熟粒の発生が多く品質低下が懸念されていた「あさひの夢」に代えて、同熟期中生品種「きぬむすめ」を奨励品種とした。また令和 2 年度には「キヌヒカリ」に代えて早生品種「にじのきらめき」を新たに奨励品種とした。

「にこまる」「きぬむすめ」の評価は年々高まっており、作付面積は、令和 4 年度には 2 品種合わせて 3,865ha と、県内の水稲作付面積の 25.8% を占めている。「にじのきらめき」も作付を希望する生産者の声は多く、今後の普及が期待される。

本県における高温耐性品種の作付面積の推移と作付比率

品種名	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
にこまる(ha)	407	530	824	918	955	973	958	1,137	1,117	1,091
きぬむすめ(ha)	554	993	1,537	2,011	2,129	2,266	2,399	2,522	2,637	2,774
作付比率(%)	5.6	9.1	14.5	18.3	19.7	20.5	21.4	23.8	24.5	25.8

## 3 水田の有効利用の推進

【目標】	【2020 現状】	【2022 実績】	【2025 目標】
・水田における野菜作付面積 (産地交付金の交付面積)	624ha	→ 843ha	→ 900ha
・実証事業を活用した水田での新たな野菜栽培の取組	-	→ 2件/年	3件/年

主食用米の需要が約半世紀にわたり下落している中、麦、大豆や飼料用米などの戦略作

物に加え、需要が強い加工・業務用に対応した露地野菜の生産性向上を促進し、水田経営の収益性の向上に向けた取組を進めた。

## ○ 推進事項とその成果

### (1) 畜産農家と連携した飼料用米、稲発酵粗飼料用稲の生産拡大

飼料用米や稲発酵粗飼料用稲（WCS用稲）などの非主食用水稲の栽培拡大や流通を促進させるため、水田活用の直接支払交付金の周知を図った。

水田における主食用・非主食用水稲作付面積の推移 (単位：ha)

	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R3/R2
主食用水稲	15,822	15,600	15,700	15,600	15,400	15,200	98.7%
非主食用水稲	1,579	1,695	1,472	1,520	1,275	1,518	119.1
加工用米	154	107	104	127	138	140	101.4
飼料用米	1,014	1,180	1,139	1,136	1,033	1,075	104.1
米粉用米	0	0	10	13	1	2	200.0
WCS用稲	405	404	217	239	240	297	123.8
その他*	6	4	2	5	5	4	80.0

※「その他」は新市場開拓(輸出)用米、備蓄米等 (資料：農林水産統計、作付計画等の報告等)

### (2) 水稲裏作での露地野菜栽培推進

水田の有効活用を進めるため、「水田農業構造改革対策推進事業」、「水田農業経営所得安定対策推進事業」及び「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」を活用した取組を推進する。

#### ア 水田での露地野菜作付に関する実証試験（水田農業構造改革対策推進事業）

令和4年度は、富士地域においてタマネギ、志太榛原地域においてレタスの栽培実証試験を行った。今後も関係機関と連携し、課題の洗い出しと解決策の検討を進め、生産拡大及び産地の形成に向けた動きを支援していく。

試験場所	富士宮市	吉田町
作物	タマネギ	レタス
試験内容	地域に適したタマネギ品種の選定	化学肥料の低減

#### イ 産地交付金を活用した露地野菜生産の拡大（水田農業経営所得安定対策推進事業費）

水田での露地野菜生産を一層進めるため、令和元年度から水田活用の直接支払交付金の産地交付金を活用し、水田での販売を目的とした露地野菜等の高収益作物作付に対する交付金のメニューを設定した。令和2年度からは品目を絞り、交付単価に濃淡を付けることで、更なる取組の拡大を推進している。

## 産地交付金の県設定内容（高収益作物該当部分）令和２年度～

用途名	交付要件 (対象品目)	交付単価 (円/10a)
高収益作物（重点品目） 作付助成	対象品目の作付け（レタス）	15,000
高収益作物（特定品目） 作付助成	対象品目の作付け（タマネギ、ネギ、キャベツ、エダマメ、未成熟とうもろこし、ブロッコリー）	12,500
高収益作物（一般品目） 作付助成	高収益作物の作付け (重点品目、特定品目以外の野菜、果樹、花き等)	7,500
高収益作物新規取組 助成	過去３年以上高収益作物の作付がない水田で、新たに高収益作物の作付に取り組むこと	15,000

※高収益作物には野菜、果樹、花き・花木等が含まれる

## ウ グリーンな栽培体系への転換サポート事業

令和３年５月に「みどりの食料システム戦略」が示され、農業生産における環境負荷軽減と持続的発展に向けた取組への転換（グリーンな栽培体系への転換）を推進することとなった。このため、令和４年度にみどりの食料システム戦略緊急対策交付金を活用して、水田農業に適したグリーンな栽培体系への転換を図るための実証に取り組んだ。

### ①水田温室効果ガス排出削減の栽培体系実証

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業実施主体：静岡県</li> <li>○県内の水稲産地に実証圃場を設け、水田温室効果ガス（メタン）の排出削減に効果的な栽培体系を検証。</li> <li>&lt;実証圃場&gt; 県内４地域：東部、志太榛原、中遠、西部</li> </ul>
実証結果 (概要)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○秋耕と稲藁分解促進資材の導入による温室効果ガスの排出抑制効果 稲藁を含む水田土壌中の炭素量を測定した結果、秋耕や稲藁分解促進資材投入で、メタン発生抑制効果が示唆された。 ※秋耕や稲藁分解促進資材投入によって、メタンの発生量がどの程度抑制されるかは、検証できなかった。水田土壌中の炭素量測定時期、測定方法を再検討する必要がある。</li> <li>○ドローンを用いた資材散布による省力化技術の効果 稲藁分解促進資材を、ドローンと、通常の散布（動力噴霧機による散布）を行い、所要時間を比較した結果、ローンで散布した場合、約35%の時間削減となった。</li> </ul>

### ②水田露地野菜（キャベツ）の環境負荷低減・省力化栽培技術の実証

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業実施主体：中遠地域の農家、農協、市で構成する地域協議会</li> <li>○水田露地キャベツの生産地において、ドローンや自動定植機を用いた環境負荷低減並びに省力化栽培技術の実証を行い、効果を検証。</li> </ul>
実証結果 (概要)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○畝立て自動施肥機、自動定植機、自走式散水機等を活用した省力化技術効果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・慣行と比較して作業時間が68%削減</li> </ul> </li> <li>○ドローンセンシングによる生育診断による追肥の使用量低減効果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・追肥施用量の削減のためには、適切な生育ステージにおけるドローンセンシングが必要であることを確認。</li> <li>・実証試験では減肥効果は判然としなかった。</li> </ul> </li> </ul>

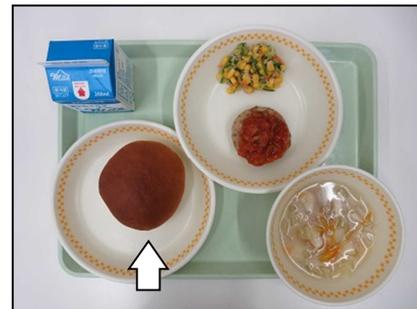
### (3) 小麦、大豆の生産性向上の推進

県内における小麦の生産は、95%が水田で行われており、湿害による生育不良などにより収量の年次変動が大きく、生産量が安定しないことが課題となっている。一方、平成27年度から県学校給食会は国産小麦を100%使用<sup>\*</sup>したパン・麺の提供を開始する等、県産小麦への需要は高い。このため、平成28年から「イワイノダイチ」より収量・品質が安定して高い「きぬあかり」を奨励品種に採用した。

平成30年産から「きぬあかり」の一般栽培が始まり、令和元年産からは、全量が「きぬあかり」へ転換した。高品質多収栽培に向け中遠地域を中心に現場の指導を行っていく。

※本県産の「きぬあかり」を40%使用（残りは北海道、滋賀県産の「ゆめちから」）

		R1 産	R2 産	R3 産
作付面積(全国比) (ha)	うち田	791(0.4%)	727(0.3%)	744(0.3%)
	うち畑	753	699	716
		38	28	28
単収(全国比)(kg/10a)		300(62%)	226(51%)	311(63%)
生産量(全国比)(t)		2,370(0.2%)	1,640(0.2%)	2,310(0.2%)
品種構成(集荷実績比率)		きぬあかり 100%	きぬあかり 100%	きぬあかり 100%



県産「きぬあかり」を100%使用したパンケーキミックス（左）と、学校給食で出されるパン（右）

## 4 主要農作物種子の生産について

稲、麦類及び大豆等の主要農作物の種子の供給については、「主要農作物種子法を廃止する法律」の制定に伴い、都道府県の義務ではなくなるとともに、同法の施行に伴い発出された農林水産事務次官通知（29政統第1238号 平成29年11月15日）では、稲、麦類及び大豆等主要農作物の種子の生産及び供給に関して、都道府県の義務でないことが示された。

県は平成30年度から通知により採種事業を継続してきたが、令和4年度に、「静岡県民の豊かな暮らしを支える食と農の基本条例」の第10条第2項に基づく要綱及び要領を制定し、引き続き採種事業に取り組む。

## 5 種苗法の一部改正について

(1) 種苗法については、令和3年4月1日付けで改正された。その主な改正点は下表のとおりである。自家増殖を行っている稲作農家も多く、今後は、法改正の内容の周知と、

育成品種の種子を自家増殖する際の許諾契約について生産者に周知する。

#### 種苗法の改正の概要

項目	内容
登録品種の取扱制限	<ul style="list-style-type: none"> <li>育成者権が及ばない範囲の特例の創設</li> <li>自家増殖の見直し</li> </ul>
登録品種の許諾に基づく増殖	<ul style="list-style-type: none"> <li>「農業者が登録品種の収穫物の一部を次期収穫物の生産のために、自らの経営に限定して使用する種苗に転用する」自家増殖は、登録品種の場合、令和4年4月1日より育成者の許諾が必要になる。</li> </ul>
表示について	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定種苗制度について、指定種苗の販売時の表示のあり方を明確化する。</li> </ul>
出願、審査及び登録	<ul style="list-style-type: none"> <li>審査内容の充実のため、出願者から審査の実費相当額を徴収する。</li> <li>出願料及び登録料の水準を引き下げる。</li> </ul>
育成者権を活用しやすくするための措置	<ul style="list-style-type: none"> <li>侵害立証を容易にする：被疑侵害品種と登録品種の同一性を推定する制度の創設</li> <li>育成者が特性表の補正を請求できる制度の創設</li> <li>農林水産大臣が、育成者権が及ぶか否かを判断する制度（裁判の証拠としての活用等）</li> </ul>

#### (2) 指定種苗の生産等に関する基準の一部改正について

今回の種苗法の一部改正を踏まえ、「指定種苗の生産等に関する基準」の内容においても、優良で純度の高い種子の供給が求められた。そのため、主要農作物である、稲、麦類及び大豆の種子生産では、原種や原原種を用いることが規定された。

## 6 今後の方向

- ① ビジネス経営体を育成するため、農地中間管理事業などを活用し、担い手に農地の面的集積を一層進めるとともに、技術や経営面での課題解決を図る。
- ② 経営所得安定対策等を活用し、飼料用米の導入、水稻裏作での野菜栽培への取組等を推進するとともに、水田農家の経営の安定化を図っていく。
- ③ 麦については、「きぬあかり」への転換を、令和元年度までに終了した。大豆とともに、高品質・高収量を実現する栽培法を確立するために、「麦・大豆栽培マニュアル」を活用し、基本技術の徹底を図る。
- ④ 改正種苗法に対応した取組を、静岡県米麦協会と連携し進める。また、農業者にとっては、育成品種の自家増殖が育成者の許諾を必要となるので、自家採種の許諾契約について、県米麦協会とともに生産者へ周知する。

## 第2 静岡県水田農業の現状

### 1 水田農業の状況 (1) 米穀等生産状況

		H30	R元	R2	R3	R4	
耕地 利用 状況	耕地面積 (ha)	65,300	64,100	62,800	61,500	60,400	
	水田面積 (ha)	22,200	21,900	21,700	21,500	21,400	
	水田の作付延べ面積 (ha)	20,900	21,500	21,400	21,200	-	
	水田の耕地利用率	94.1%	93.9%	94.3%	94.2%	-	
米穀等 生産 状況	水 稲	水稲作付面積 (子実用) (ha)	15,800	15,700	15,500	15,300	15,000
		主食用水稲作付面積 (ha)	15,700	15,600	15,400	15,200	15,000
		水稲収穫量 (子実用) (t)	79,900	81,200	74,100	77,400	76,400
		主食用水稲収穫量 (t)	79,400	80,700	73,600	76,900	76,400
		10a当たり収量 (kg)	506	517	478	506	509
		作況指数	97	99	92	97	98
	小 麦	小麦作付面積 (ha)	758	791	727	744	749
		うち田 (ha)	721	753	699	715	717
		うち畑 (ha)	37	38	28	29	32
		小麦収穫量 (t)	1,720	2,370	1,640	2,310	1,850
		10a当たり収量 (kg)	227	300	226	311	247
	大 豆	大豆作付面積 (ha)	260	251	223	244	203
		うち田 (ha)	189	188	163	198	157
		うち畑 (ha)	71	63	60	46	46
		大豆収穫量 (t)	179	191	169	200	146
		10a当たり収量 (kg)	69	76	76	82	72
	ビジネス 経営体	水稲ビジネス経営体数	15	17	18	18	-
		同水稲作付面積 (ha)	822	930	1,094	1,220	-
		同面積シェア	5.2%	5.9%	7.1%	8.0%	-
		同水田作付延べ面積 (ha)	1,191	1,191	1,350	1,481	-
同作付延べ面積シェア		5.7%	5.8%	6.7%	7.30%	-	
産出額	農業産出額 (億円)	2,120	1,979	1,883	2,084	-	
	米産出額 (億円)	194	198	172	162	-	
	米産出額シェア	9.2%	10.0%	9.1%	7.8%	-	

(資料：農林水産統計、農業ビジネス課)

注1) 作付延べ面積には野菜、飼肥料作物、その他作物等の作付面積を含む

2) 作付面積および収穫量は子実用 (青刈り面積 (飼料用米等を含む。)) を除く)

3) 小麦及び大豆の収穫量と10a当たり単収は田畑合計の値

## (2) 水稲生産状況

### ア 水稲生産状況の推移

年産	静岡県								全国			
	作付面積 (子実用) ha	単収 kg/10a	収穫量 (子実用) t	作況 指数	平年 単収 kg/10a	作柄表示地帯別作況指数			作付面積 (子実用) 千ha	単収 kg/10a	収穫量 (子実用) 千t	作況 指数
						東部	中部	西部				
H 1	22,600	470	106,200	103	455	105	105	102	2,076	496	10,297	101
H 2	22,300	460	102,600	101	457	102	100	101	2,055	509	10,463	103
H 3	22,000	469	103,200	102	461	102	101	102	2,033	470	9,565	95
H 4	22,200	506	112,300	109	463	106	113	110	2,092	504	10,546	101
H 5	22,200	459	101,900	98	467	94	103	99	2,127	367	7,811	74
H 6	23,100	530	122,400	113	467	113	116	112	2,200	544	11,961	109
H 7	22,200	510	113,200	108	472	106	111	108	2,106	509	10,724	102
H 8	20,900	516	107,800	108	477	107	110	108	1,967	525	10,328	105
H 9	20,400	514	104,900	106	486	106	109	104	1,944	515	10,004	102
H 10	19,300	495	95,500	100	496	97	102	100	1,793	499	8,939	98
H 11	19,300	531	102,500	105	504	102	106	107	1,780	515	9,159	101
H 12	19,100	529	101,000	103	515	103	102	103	1,763	537	9,472	104
H 13	18,700	525	98,200	102	515	101	101	102	1,700	532	9,048	103
H 14	18,600	517	96,200	99	520	99	100	100	1,683	527	8,876	101
H 15	18,400	482	88,700	93	521	93	93	93	1,660	469	7,779	90
H 16	18,500	534	98,800	102	521	105	102	102	1,697	514	8,721	98
H 17	18,500	516	95,500	99	523	99	99	98	1,702	532	9,062	101
H 18	18,400	502	92,400	96	523	94	96	97	1,684	507	8,546	96
H 19	18,300	509	93,100	97	523	99	98	97	1,669	522	8,705	99
H 20	18,000	519	93,400	99	523	99	99	100	1,624	543	8,815	102
H 21	17,700	503	89,000	97	521	97	95	97	1,621	522	8,466	98
H 22	17,500	512	89,600	98	521	98	97	99	1,625	522	8,478	98
H 23	17,200	539	92,700	103	521	102	102	105	1,574	533	8,397	101
H 24	17,100	525	89,800	101	521	100		101	1,579	540	8,519	102
H 25	17,100	521	89,100	100	521	101		99	1,597	539	8,603	102
H 26	16,800	514	86,400	99	521	98		99	1,573	536	8,439	101
H 27	16,300	503	82,000	96	513	97		96	1,505	531	7,986	100
H 28	16,000	525	84,000	101	513	99		103	1,479	544	8,044	103
H 29	15,700	515	80,900	99	513	97		101	1,465	534	7,822	100
H 30	15,800	506	79,900	97	513	95		99	1,470	529	7,780	98
R 元	15,700	517	81,200	99	513	95		102	1,469	528	7,762	99
R 2	15,500	478	74,100	92	511	90		94	1,462	531	7,763	99
R 3	15,300	506	77,400	97	511	97		97	1,403	539	7,563	101
R 4	15,000	509	76,400	98	511	98			1,355	536	7,269	100

(資料：農林水産統計)

注) 平成26年産までの作況指数及び平年単収は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出した数値。平成27年産以降は、農家等が実際に使用しているふるい目幅で算出した数値(静岡県は1.80mm)。

イ 農林事務所管内別の水稻生産状況

		H12年	H17年	H22年	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年
賀茂	作付面積 (ha)	344	314	216	166	164	159	156	155	149	144	133
	10a当たり収量(kg)	497	474	493	495	499	495	478	468	446	481	464
	収 穫 量 ( t )	1,708	1,487	1,064	821	819	787	746	725	665	693	641
東部	作付面積 (ha)	3,426	3,207	3,122	3,010	2,970	2,927	2,905	2,886	2,848	2,832	2813
	10a当たり収量(kg)	546	527	516	514	521	504	490	477	448	500	507
	収 穫 量 ( t )	18,692	16,901	16,117	15,462	15,464	14,743	14,221	13,768	12,764	14,155	14,003
富士	作付面積 (ha)	1,380	1,341	1,317	1,243	1,222	1,207	1,198	1,177	1,143	1,094	1083
	10a当たり収量(kg)	498	499	494	499	503	481	480	478	466	484	486
	収 穫 量 ( t )	6,870	6,691	6,510	6,200	6,150	5,810	5,750	5,630	5,330	5,300	5260
中部	作付面積 (ha)	542	505	431	379	374	367	356	326	310	299	297
	10a当たり収量(kg)	509	503	487	493	508	504	497	515	471	504	502
	収 穫 量 ( t )	2,760	2,541	2,100	1,870	1,900	1,850	1,770	1,680	1,460	1,510	1490
志太 榛原	作付面積 (ha)	3,380	3,332	3,155	3,011	2,966	2,934	2,917	2,897	2,835	2,774	2774
	10a当たり収量(kg)	538	530	515	511	527	523	509	537	487	521	516
	収 穫 量 ( t )	18,200	17,660	16,264	15,393	15,644	15,344	14,842	15,564	13,800	14,463	14,353
中遠	作付面積 (ha)	7,200	7,161	6,680	6,127	5,958	5,877	5,970	5,986	6,006	5,954	5986
	10a当たり収量(kg)	527	512	508	494	527	516	509	532	489	507	514
	収 穫 量 ( t )	38,200	36,679	33,950	30,250	31,390	30,340	30,400	31,820	29,380	30,230	29700
西部	作付面積 (ha)	2,840	2,644	2,552	2,360	2,328	2,274	2,293	2,242	2,202	2,178	2171
	10a当たり収量(kg)	526	511	529	510	542	540	530	529	485	505	522
	収 穫 量 ( t )	14,800	13,505	13,510	12,040	12,610	12,280	12,160	11,860	10,670	11,000	11,170
県計	作付面積 (ha)	19,100	18,500	17,500	16,300	16,000	15,700	15,800	15,700	15,500	15,300	15000
	10a当たり収量(kg)	529	516	512	503	525	515	506	517	478	506	509
	収 穫 量 ( t )	101,000	95,500	89,600	82,000	84,000	80,900	79,900	81,200	74,100	77,400	76400

(資料:農林水産統計)

- 注1) 農林事務所別の10a当たり収量は、管内市町総収穫量÷管内市町総作付面積にて算出  
 2) 作付面積や収穫量はラウンド処理した数値を積み上げているものがある  
 3) ラウンドの関係で合計が一致しない場合がある  
 4) 農林事務所別の数値は農芸振興課にて算出

## ウ 市町別の水稲生産状況

市町名	作付面積(ha)			10a当たり収量(kg)			収穫量(t)		
	R 2年	R 3年	R 4年	R 2年	R 3年	R 4年	R 2年	R 3年	R 4年
下田市	45	44	43	445	484	448	200	213	210
東伊豆町	0	0	0	-	-	-	0	0	0
河津町	7	6	7	435	467	465	30	28	33
南伊豆町	34	32	30	462	470	476	157	150	143
松崎町	58	57	48	443	490	486	257	279	233
西伊豆町	5	5	5	425	459	447	21	23	22
熱海市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三島市	181	180	179	489	531	526	885	956	942
伊東市	13	13	13	482	480	486	63	62	63
伊豆市	404	402	402	429	489	488	1,730	1,970	1,960
伊豆の国市	349	354	343	494	532	527	1,720	1,880	1,810
函南町	164	162	157	484	521	522	794	844	820
沼津市	348	345	349	471	513	512	1,640	1,770	1,790
御殿場市	825	812	807	418	483	480	3,450	3,920	3,870
裾野市	132	131	139	476	516	520	628	676	723
清水町	43	41	39	480	524	521	206	215	203
長泉町	33	31	29	479	521	525	158	162	152
小山町	356	361	356	417	470	469	1,490	1,700	1,670
富士宮市	601	586	584	447	474	478	2,690	2,780	2,790
富士市	542	508	499	487	495	494	2,640	2,520	2,470
静岡市	310	299	297	471	504	502	1,460	1,510	1,490
島田市	500	457	455	489	516	517	2,450	2,360	2,350
焼津市	888	880	874	492	519	517	4,370	4,570	4,520
藤枝市	694	690	684	477	520	523	3,310	3,590	3,580
牧之原市	494	494	489	484	528	526	2,390	2,610	2,570
吉田町	250	244	245	494	530	528	1,240	1,290	1,290
川根本町	9	9	9	444	480	482	40	43	43
掛川市	1,430	1,390	1,380	497	515	518	7,100	7,150	7,120
御前崎市	272	270	268	516	518	522	1,400	1,400	1,400
菊川市	720	730	708	518	520	524	3,730	3,800	3,710
森町	414	394	386	473	504	501	1,960	1,990	1,930
磐田市	1,800	1,800	1,770	483	502	511	8,680	9,040	9,040
袋井市	1,370	1,370	1,290	475	500	505	6,510	6,850	6,500
浜松市	1,970	1,950	1,940	482	505	513	9,490	9,820	9,940
湖西市	232	228	231	510	519	531	1,180	1,180	1,230
県計	15,500	15,300	15,000	478	506	509	74,100	77,400	76,400

注1)ラウンドの関係で合計が合致しない場合がある

(資料:農林水産統計 作物統計調査 R4 市町村別 水稲)

### (3) 水稻品種構成

#### ア 水稻品種別作付面積

	平成30年		令和元年		令和2年		令和3年		令和4年	
	作付面積 ha	作付比率 %								
コシヒカリ	7,062	44.7	6,986	44.5	6,639	43.4	6,257	40.9	6,432	42.9
きぬむすめ	2,266	14.3	2,399	15.3	2,522	16.5	2,637	17.2	2,774	18.5
あいちのかおりSBL	2,149	13.6	2,155	13.7	1,881	12.3	1,647	10.8	1,481	9.9
にこまる	973	6.2	958	6.1	1,137	7.4	1,117	7.3	1,091	7.3
にじのきらめき	-	-	-	-	-	-	60	0.4	364	2.4
キヌヒカリ	1,228	7.8	1,174	7.5	1,070	7.0	1,032	6.7	821	5.5
ひとめぼれ	619	3.9	581	3.7	571	3.7	542	3.5	528	3.5
歓喜の風	-	-	-	-	224	1.5	308	2.0	189	1.3
ヒノヒカリ	182	1.2	192	1.2	183	1.2	178	1.2	178	1.2
ミルキークイーン	75	0.5	91	0.6	93	0.6	97	0.6	122	0.8
あきたこまち	35	0.2	34	0.2	35	0.2	31	0.2	33	0.2
なつしずか	32	0.2	27	0.2	22	0.1	22	0.1	23	0.2
山田錦	137	0.9	112	0.7	82	0.5	76	0.5	103	0.7
誉富士	69	0.4	65	0.4	73	0.5	66	0.4	71	0.5
五百万石	8	0.1	8	0.1	8	0.1	9	0.1	7	0.0
その他うるち	277	1.8	269	1.7	282	1.8	659	4.3	278	1.9
うるち品種計	15,112		15,052		14,822		14,739		14,494	
葵美人	46	0.3	240	1.5	229	1.5	220	1.4	208	1.4
峰の雪もち	249	1.6	260	1.7	215	1.4	208	1.4	205	1.4
ヒヨクモチ	393	2.5	148	0.9	135	0.9	133	0.9	93	0.6
もち品種計	688		648		579		561		506	
子実用作付面積	15,800		15,700		15,400		15,300		15,000	

注1)太字は県奨励品種

(資料:農林水産省・JA静岡経済連のデータから農芸振興課が推計)

2) 作付面積は種子供給量及び農産物検査数量等から換算した推計値

3) 端数切り上げや使用データが複数あることにより合計が一致しない場合がある

イ 農林事務所管内別の水稲品種別作付面積

令和4年産

	賀茂		東部		富士		中部		志太榛原		中遠		西部	
	面積 ha	比率 %												
コシヒカリ	11	7.6	1,632	57.3	656	57.3	46	15.0	754	26.6	3,186	53.1	506	23.0
きぬむすめ	55	37.0	237	8.3	199	17.4	81	26.1	654	23.1	1,350	22.5	473	21.6
あいちのかおりSBL	27	17.9	298	10.5	17	1.5	41	13.3	580	20.5	114	1.9	585	26.6
にこまる	4	2.5	192	6.7	2	0.2	19	6.2	105	3.7	591	9.8	265	12.1
キヌヒカリ	30	20.3	68	2.4	97	8.5	38	12.1	275	9.7	254	4.2	162	7.4
ひとめぼれ	9	6.0	126	4.4	122	10.6	33	10.6	226	8.0	45	0.8	11	0.5
歓喜の風		0.0	14	0.5	1	0.1	1	0.2	20	0.7	144	2.4	20	0.9
ヒノヒカリ		0.0	78	2.7		0.0	17	5.6	1	0.0	47	0.8	39	1.8
ミルクQueen		0.0	10	0.4	10	0.9	12	3.8	32	1.1	44	0.7	27	1.2
あきたこまち		0.0	3	0.1		0.0	1	0.2	27	1.0	2	0.0	2	0.1
なつしずか	0	0.3	0	0.0	1	0.1	2	0.7	3	0.1	15	0.2	1	0.1
にじのきらめき	0	0.1	1	0.0	3	0.2	0	0.0	2	0.1	16	0.3	1	0.0
山田錦		0.0	6	0.2	1	0.1	2	0.7	17	0.6	41	0.7	37	1.7
誉富士		0.0	0	0.0	5	0.4		0.0	51	1.8	12	0.2	10	0.5
五百万石		0.0		0.0		0.0		0.0	7	0.2	0	0.0		0.0
その他うるち		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
うるち計	136	91.8	2,667	93.6	1,113	97.3	293	94.3	2,754	97.1	5,860	97.6	2,140	97.4
葵美人	7	4.9	42	1.5	13	1.2	10	3.4	62	2.2	44	0.7	49	2.2
峰の雪もち	5	3.4	136	4.8	17	1.5	6	2.1	15	0.5	17	0.3	3	0.1
ヒヨクモチ		0.0	3	0.1		0.0	1	0.3	6	0.2	82	1.4	5	0.2
もち計	12	8.2	182	6.4	31	2.7	18	5.7	82	2.9	143	2.4	57	2.6
農林別計	149		2,848		1,144		310		2,836		6,004		2,196	

注1) 作付面積は種子供給量等から換算した推計値 (資料:農林水産省、静岡県経済連のデータから農芸振興課が推計)  
 注2) 端数切り上げにより合計が一致しない場合がある

#### (4) 水稻被害状況

(単位:ha,t,%)

被害 年産	水稻 作付面積	気象災害								
		気象災害			高温障害			日照不足		
		面積	被害量	被害面積比率	面積	被害量	被害面積比率	面積	被害量	被害面積比率
H18年	18,400	15,700	5,190	85.3	-	-	-	14,200	4,940	77.2
H19年	18,300	19,500	4,380	106.6	7,110	1,430	38.9	8,350	1,810	45.6
H20年	18,000	9,440	1,840	52.4	4,330	655	24.1	1,960	410	10.9
H21年	17,700	19,400	6,400	109.6	470	30	2.7	12,200	4,390	68.9
H22年	17,500	18,300	4,330	104.6	14,200	3,460	81.1	-	-	-
H23年	17,200	8,200	1,610	47.7	735	87	4.3	-	-	-
H24年	17,100	17,200	1,890	100.6	3,920	657	22.9	8,980	400	52.5
H25年	17,100	28,100	2,460	164.3	12,500	811	73.1	10,000	255	58.5
H26年	16,800	21,100	2,930	125.6	4,310	305	25.7	6,370	983	37.9
H27年	16,300	26,900	5,290	165.0	6,470	685	39.7	12,100	2,970	74.2
H28年	16,000	5,300	1,420	33.1	-	-	-	4,230	1,200	26.4
H29年	15,700	8,740	3,020	55.7	4,240	530	27.0	4,500	2,490	28.7
H30年	15,800	13,220	4,110	83.7	3,850	1,480	24.4	9,370	2,630	59.3
R元年	15,700	18,200	3,670	115.9	9,520	1,510	60.6	7,200	1,860	45.9
R2年	15,500	22,686	5,439	146.4	14,900	2,340	96.1	7,640	3,050	49.3
R3年	15,300	8,540	3,087	55.8	1,950	407	12.7	6,590	2,680	43.1
R4年	15,000	19,268	2,640	128.5	10,200	780	68.0	8,900	1,820	59.3

被害 年産	水稻 作付面積	病害			虫害			カメムシ		
		面積	被害量	被害面積比率	面積	被害量	被害面積比率	面積	被害量	被害面積比率
		H18年	18,400	7,400	1,660	40.2	5,740	735	31.2	1,000
H19年	18,300	9,110	1,330	49.8	6,240	1,080	34.1	622	80	3.4
H20年	18,000	9,320	1,450	51.8	6,790	1,040	37.7	1,280	130	7.1
H21年	17,700	8,230	1,910	46.5	7,670	1,170	43.3	1,090	120	6.2
H22年	17,500	9,570	1,280	54.7	14,300	1,820	81.7	1,990	184	11.4
H23年	17,200	6,960	993	40.5	7,740	1,030	45.0	1,450	135	8.4
H24年	17,100	7,540	969	44.1	10,200	1,150	59.6	3,060	351	17.9
H25年	17,100	9,420	1,510	55.1	10,300	1,480	60.2	3,010	359	17.6
H26年	16,800	14,200	1,650	84.5	11,800	1,140	70.2	4,480	457	26.7
H27年	16,300	12,800	1,490	78.5	10,600	994	65.0	3,290	299	20.2
H28年	16,000	9,820	1,300	61.4	9,680	1,160	60.5	3,130	470	19.6
H29年	15,700	3,930	576	25.0	5,330	470	33.9	4,020	305	25.6
H30年	15,800	3,140	576	19.9	5,210	494	33.0	3,950	329	25.0
R元年	15,700	3,090	653	19.7	6,110	1,330	38.9	2,370	310	15.1
R2年	15,500	2,970	689	19.2	7,740	4,528	49.9	3,630	428	23.4
R3年	15,300	5,120	1,220	33.5	4,490	578	29.3	3,480	428	22.7
R4年	15,000	4,590	540	30.6	4,667	544	31.1	4,080	384	27.2

(資料:農林水産統計)

注1)被害は、気象的、生物的、その他異常な環境によって、農作物に損傷を生じ、「基準収量」より減少した状態をいう。

2)被害面積は同一ほ場で数回被害にあえば、蓄積した面積となるため、被害面積が水稻作付面積を上回る場合がある。

3)被害面積比率は、「被害面積÷水稻作付面積」にて算出している。

(5) 県内農業における稲作  
ア 農業産出額

(単位:億円)

	H7年	H12年	H17年	H22年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年
農業産出額計	3,070	2,800	2,516	2,123	2,154	2,204	2,266	2,263	2,120	1,979	1,883	2,084
米	320	248	225	175	173	183	196	198	194	198	172	162
麦類	2	5	3	1	1	0	0	0	1	0	0	0
豆類	4	4	2	1	1	1	1	1	1	0	1	0
いも類	66	59	48	44	37	46	40	31	29		43	40
野菜	802	729	633	586	598	637	700	727	643	643	578	591
果実	319	310	276	294	283	304	331	302	298	234	254	282
花き	243	231	197	177	175	177	177	166	157	164	153	168
工芸作物	567	556	479	305	231	199	201	211	188	147	119	148
その他	53	42	45	31	25	25	24	24	24	-	-	-
畜産	509	431	429	375	502	522	490	486	464	461	451	544
加工農産物	184	185	179	135	128	110	105	116	121	104	85	122
産出額に占める米の比率(%)	10.4	8.9	8.9	8.2	8.0	8.3	8.6	8.7	9.2	10.0	9.1	7.8

(資料:農林水産統計)

- 注 1) その他:種苗・苗木、養蚕等 工芸作物:茶(生葉)、葉たばこ等 加工農産物:荒茶、切干だいこん、切干いも、干柿等  
2) ラウンドの関係で合計が合わない場合がある

イ 相対取引価格

(出荷業者・通年平均)(主食用1等、円/玄米60kg)

産地	品種銘柄	平成29年産	平成30年産	令和元年産	令和2年産	令和3年産	令和4年産
静岡	コシヒカリ	15,548	15,971	16,207	15,531	14,424	14,572
静岡	きぬむすめ	14,415	14,951	15,229	14,776	12,342	12,678
全銘柄平均		15,590	15,686	15,716	14,616	12,804	13,867

(資料:農林水産省)

- 注 1) 出荷業者等と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格(運賃、包装代、消費税を含む1等米の価格)を加重平均した価格  
2) 各年産における、出回りから翌年10月までの平均価格(平成30年産は出回りから翌年8月、令和元年産は元年12月(平成30年産は出回りから翌年8月、令和4年産は5年2月までの平均価格)。

ウ 販売農家に占める稲作付農家の比率

(単位:戸、%)

	総販売農家数 A	販売目的で稲を作付した農家数 B	B/A
平成2年	102,966	67,079	65.1
平成7年	65,152	42,593	65.4
平成12年	56,455	23,019	40.8
平成17年	45,954	17,971	39.1
平成22年	38,969	16,336	41.9
平成27年	31,864	14,648	46.0
令和2年度	25,247	13,933	55.2

(資料:農林業センサス)

## (6) 経営規模

### ア 田の面積規模別経営体数（過去1年間に稲を作った田）

ha	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
0.3ha未満	20,501	18,142	12,699	9,642	6,713	5,086
0.3～0.5	12,673	10,024	8,091	6,777	5,504	4,840
0.5～1.0	7,408	5,317	4,882	4,391	3,729	3,592
1.0～2.0	1,574	1,182	1,195	1,208	1,155	1,212
2.0～3.0	222	210	237	262	270	293
3.0～5.0	130	136	146	203	191	249
5.0～10.0	94	123	129	161	171	217
10.0～15.0	29	27	57	59	65	88
15.0ha以上	31	45	53	88	102	176
計	42,662	35,206	27,489	22,791	17,900	15,753

(資料:2020農林業センサス)

### イ 田の経営耕地面積規模別経営体数（農林別）

経営耕地面積 ha	賀茂		東部		富士		中部		志太榛原		中遠		西部		県	
	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%
0.3ha未満	92	52.0	738	20.6	186	20.3	374	57.3	713	24.2	562	20.6	1,073	49.7	3,738	28.4
0.3～0.5	44	24.9	1,209	33.7	340	37.1	156	23.9	1,062	36.0	733	26.8	602	27.9	4,146	31.5
0.5～1.0	27	15.3	1,081	30.1	249	27.2	80	12.3	780	26.5	745	27.3	293	13.6	3,255	24.7
1.0～2.0	6	3.4	393	11.0	80	8.7	25	3.8	238	8.1	273	10.0	94	4.4	1,109	8.4
2.0～3.0	4	2.3	81	2.3	21	2.3	4	0.6	50	1.7	91	3.3	23	1.1	274	2.1
3.0～5.0	3	1.7	46	1.3	25	2.7	6	0.9	46	1.6	78	2.9	21	1.0	225	1.7
5.0～10.0	0	0.0	31	0.9	11	1.2	3	0.5	38	1.3	94	3.4	21	1.0	198	1.5
10.0～15.0	1	0.6	4	0.1	5	0.5	2	0.3	8	0.3	44	1.6	11	0.5	75	0.6
15.0ha以上	0	0.0	4	0.1	0	0.0	3	0.5	12	0.4	112	4.1	22	1.0	153	1.2
計	177		3,587		917		653		2,947		2,732		2,160		13,173	

(資料:2020農林業センサス)

### ウ 田の経営耕地面積規模別面積（農林別）

(単位:ha)

経営耕地面積 ha	賀茂		東部		富士		中部		志太榛原		中遠		西部		県	
	面積	%	面積	%	面積	%	面積	%	面積	%	面積	%	面積	%	面積	%
0.3ha未満	14	14.6	143	5.7	34	4.9	57	15.4	126	5.4	103	1.5	180	10.6	657	4.6
0.3～0.5	15	15.6	445	17.7	125	17.9	55	14.8	393	17.0	273	4.1	219	12.9	1,525	10.6
0.5～1.0	17	17.7	719	28.6	161	23.1	52	14.0	509	22.0	498	7.4	183	10.8	2,139	14.8
1.0～2.0	8	8.3	503	20.0	103	14.8	34	9.2	302	13.0	346	5.1	120	7.1	1,416	9.8
2.0～3.0	8	8.3	185	7.4	49	7.0	9	2.4	115	5.0	213	3.2	51	3.0	630	4.4
3.0～5.0	12	12.5	173	6.9	94	13.5	21	5.7	170	7.3	295	4.4	73	4.3	838	5.8
5.0～10.0	9	9.4	215	8.5	68	9.8	21	5.7	246	10.6	671	10.0	146	8.6	1,376	9.5
10.0～15.0	13	13.5	44	1.7	63	9.0	26	7.0	96	4.1	526	7.8	122	7.2	890	6.2
15.0ha以上	0	0.0	88	3.5	0	0.0	96	25.9	359	15.5	3,801	56.5	600	35.4	4,944	34.3
計	96		2,515		697		371		2,316		6,726		1,694		14,415	

(資料:2020農林業センサス)

注) ラウンドの関係で合計が合わない場合がある

エ 田の経営耕地面積規模別経営体数（市町別）

市区町村名	0.3ha未満		0.3～0.5		0.5～1.0		1.0～1.5		1.5～2.0		2.0～2.5		2.5～3.0		3.0～4.0		4.0～5.0		5.0～7.5		7.5～10.0		10.0～15.0		15.0ha以上		田のある経営体数	総経営体数	田のある経営体数／総経営体数%	
	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%	経営体数	%				
県計	3,738	28.4	4,146	31.5	3,255	24.7	847	6.4	262	2.0	186	1.4	88	0.7	132	1.0	93	0.7	132	1.0	65	0.5	75	0.6	153	1.2	13,173	25,938	50.8	
下田市	15	34.9	14	32.6	10	23.3	3	7.0									1										43	77	55.8	
東伊豆町	2	66.7	1			0.0																					3	175	1.7	
河津町	37	78.7	7	14.9	2	4.3					1																47	158	29.8	
南伊豆町	13	43.3	4	13.3	9	30.0			1	3.3	1	3.3			1								1	3.3			30	104	28.9	
松崎町	24	47.1	17	33.3	5	9.8	1		1	2.0	2	3.9					1	2.0									51	73	69.9	
西伊豆町	1	33.3	1	33.3	1	33.3																					3	24	12.5	
熱海市																												0	0	#DIV/0!
三島市	72	24.6	96	32.8	94	32.1	18	6.1	5	1.7	2					0.0	2		2	0.7	1	0.3	1		1	0.3	293	483	60.7	
伊東市	4	23.5	7	41.2	6	35.3																					17	254	6.7	
伊豆市	137	26.9	234	46.0	116	22.8	14	2.8	3	0.6			2	0.4						0.0	2	0.4					509	583	87.3	
伊豆の国市	111	21.6	195	38.0	151	29.4	43	8.4	6	1.2	2	0.4	1	0.2	1		1	0.2			1			0.0	1	0.2	513	611	84.0	
函南町	46	21.5	82	38.3	59	27.6	16	7.5	4	1.9	2	0.9			1						2	0.9			2	0.9	214	281	76.2	
沼津市	83	24.9	86	25.8	89	26.7	30	9.0	14	4.2	10	3.0	3	0.9	9	2.7	5	1.5	5	1.5				0.0			334	886	37.7	
裾野市	71	34.3	82	39.6	44	21.3	7	3.4			1	0.5			1				1								207	311	66.6	
御殿場市	104	10.9	283	29.7	343	36.0	119	12.5	40	4.2	30	3.1	7	0.7	7	0.7	7	0.7	8	0.8	3	0.3	3	0.3		0.0	954	992	96.2	
清水町	20	29.9	23	34.3	21	31.3	2	3.0							1	1.5											67	77	87.0	
小山町	29	7.4	105	26.8	148	37.8	53	13.5	19	4.9	11	2.8	10	2.6	6	1.5	4	1.0	6	1.5	1	0.3			0.0	392	399	98.3		
長泉町	61	70.1	16	18.4	10	11.5																					87	136	64.0	
富士宮市	90	16.9	218	40.8	167	31.3	39	7.3	7	1.3		0.0	3		4	0.8	3	0.6	3	0.6				0.0			534	868	61.5	
富士市	96	25.1	122	31.9	82	21.4	22	5.7	12	3.1	11	2.9	7	1.8	10	2.6	8	2.1	8	2.1		0.0	5	1.3			383	858	44.6	
静岡市	374	57.3	156	23.9	80	12.3	16	2.5	9	1.4	3	0.5	1	0.2	4	0.6	2	0.3	3	0.5		0.0	2	0.3	3	0.5	653	3,035	21.5	
島田市	228	31.6	243	33.7	176	24.4	40	5.6	16	2.2	6	0.8	3	0.4	3	0.4	1		2		1		1		1		721	1,371	52.6	
焼津市	96	12.3	349	44.7	243	31.1	34	4.4	8	1.0	5	0.6	2	0.3	10	1.3	6	0.8	10	1.3	6	0.8	4	0.5	8	1.0	781	841	92.9	
藤枝市	213	26.6	275	34.4	217	27.1	50	6.3	15	1.9	7	0.9	6	0.8	4	0.5	3	0.4	5	0.6	2	0.3	2		1	0.1	800	1,068	74.9	
牧之原市	165	49.3	143	42.7	104	31.0	44	13.1	8	2.4	10	3.0	4	1.2	7	2.1	5	1.5	6	1.8	1		1	0.3	2	0.6	335	1,115	30.0	
吉田町	4	3.1	47	35.9	38	29.0	17	13.0	6	4.6	6	4.6	1	0.8	4	3.1	3	2.3	3	2.3	2	1.5					131	139	94.2	
川根本町	7	50.0	5	35.7	2	14.3																					14	291	4.8	
御前崎市	27	19.9	46	33.8	29	21.3	10	7.4	2	1.5	5	3.7	1	0.7	3	2.2		0.0	3	2.2		0.0	3	2.2	7	5.2	136	460	29.6	
掛川市	174	22.0	245	30.9	209	26.4	52	6.6	17	2.2	11	1.4	7	0.9	13	1.6	11	1.4	11	1.4	11	1.4	14	1.8	16	2.0	792	1,439	55.0	
菊川市	185	28.3	201	30.7	179	27.4	25	3.8	13	2.0	10	1.5	4	0.6	6	0.9	3	0.5	7	1.1	3	0.5	3	0.5	14	2.1	654	947	69.1	
磐田市	96	18.5	115	22.1	151	29.0	52	10.0	11	2.1	10	1.9	5	1.0	7	1.4	6	1.2	11	2.1	10	1.9	8	1.5	38	7.3	520	1,041	50.0	
袋井市	56	13.9	78	19.3	109	27.0	52	12.9	11	2.7	15	3.7	8	2.0	9	2.2	7	1.7	13	3.2	5	1.2	8	2.0	33	8.2	404	663	60.9	
森町	24	10.6	48	21.2	68	30.1	20	8.9	8	3.5	7	3.1	8	3.5	6	2.7	7	3.1	12	5.3	6	2.7	8	3.5	4	1.8	226	307	73.6	
浜松市	974	50.5	538	27.9	257	13.3	57	3.0	21	1.1	11	0.6	4	0.2	12	0.6	6	0.3	9	0.5	7	0.4	11	0.6	20	1.0	1,927	5,304	36.3	
湖西市	99	42.5	64	27.5	36	15.5	11	4.7	5	2.2	7	3.0	1	0.4	3	1.3		0.0	4	1.7	1			0.0	2	0.9	233	455	51.2	

(資料:2020農林業センサス)

## (7) 土地条件

### ア 耕地面積及び拡張・かい廃面積

(単位:ha,%)

		H2年	H7年	H12年	H17年	H22年	H26年	H27年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	
耕地面積 (A)		89,400	83,200	78,500	75,100	70,800	68,500	67,900	66,400	65,300	64,100	62,800	61,500	60,400	
水田面積 (B)		30,600	28,600	26,700	25,000	23,400	22,900	22,700	22,400	22,200	21,900	21,700	21,500	21,400	
水田比率(B)/(A)		34.2	34.4	34.0	33.3	33.1	33.4	33.4	33.7	34.0	34.2	34.6	35.0	35.4	
水	拡張	開墾	0	0	-	-	7	112	68	-	-	-	-	-	-
		復旧	0	0	-	-	-	4	0	-	-	-	-	-	-
		田畑 転換	0	0	-	-	-	0	1	-	-	-	-	-	-
		計	0	0	0	0	7	116	69	120	34	30	21	31	31
田	かい 廃	自然 災害	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		人為 かい 廃	359	286	309	218	152	265	217	-	-	-	-	-	-
		田畑 転換	73	59	122	32	26	17	13	-	-	-	-	-	-
		計	432	345	431	250	178	282	230	251	243	250	246	239	131
増 減		▲ 432	▲ 345	▲ 431	▲ 250	▲ 171	▲ 166	▲ 161	▲ 131	▲ 209	▲ 220	▲ 225	▲ 208	▲ 100	

(資料:農林水産統計)

### イ 農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率(田)

(単位:ha,%)

R3年	作付(栽培) 延べ面積		麦類 (子実用)		大豆 (乾燥子実)		そば (乾燥子実)		その他作物		耕地利用率	
	実数	対前 年差	実数	対前 年差	実数	対前 年差	実数	対前 年差	実数	対前 年差	実数 (%)	対前年 (ポイント)
静岡	20,300	0	-	-	198	35	52	12	4,010	100	94.4	0.9
全国	2,200,000	▲9,000	180,400	4,000	115,600	1,400	38,500	▲400	460,800	43,600	93.0	0.1
全国 シェア	0.9	-	-	-	0.2	-	0.1	-	0.9	-	-	-

(資料:農林水産統計)

## ウ 水田区画整備状況

(単位:ha,%)

	水田耕地	30a以上に整形	
	面積	面積	比率
H24年	23,200	10,738	46.3
H25年	23,000	10,737	46.7
H26年	22,900	10,762	47.0
H27年	22,700	10,762	47.4
H28年	22,500	10,769	47.9
H29年	22,400	10,766	48.1
H30年	22,200	10,773	48.5
R1年	21,900	10,708	48.9
R2年	21,700	10,718	49.4

(資料:水田耕地面積;農林水産省 耕地及び作付面積統計、区画整備面積;農林水産省 農業基盤情報基礎調査)

## (8) 稲作経営統計

### ア 水稻作収益性

(単位:円,%)

	H2年	H7年	H12年	H17年	H22年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	25年全国
粗収益 (10a当たり)	143,919	144,470	142,964	129,237	111,385	123,807	105,860	92,321	110,429	120,860	・	113,522
収量 (10a当たり)	486	513	536	510	494	509	499	467	505	478	468	528
主産物価格 (60kg当たり)	16,847	16,897	15,770	14,751	13,220	14,337	12,567	11,607	12,802	14,493	・	12,632
副産物価格 (10a当たり)	7,521	2,462	2,201	3,878	2,409	2,445	1,226	1,875	2,623	5,507	2,565	2,373
農業所得 (10a当たり)	35,526	59,407	45,358	41,874	12,593	30,326	・	・	・	・	・	27,177
所得率	24.7	41.1	31.7	32.4	11.3	24.5	・	・	・	・	・	23.9
家族労働報酬 (1日当たり)	438	3,551	2,269	3,338	▲1,161	2,222	・	・	・	・	・	3,646
利潤	▲87,215	▲80,920	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(資料:農林水産統計)

注1)平成6年から、600kg以上販売かつ対平年収量増減率±20%未満の販売農家を調査対象とした。

2)10a当たり収量については、調査対象農家(販売農家)の平均である。

## イ 水稻作生産費

(単位：10a当たり円)

	H7年	H12年	H17年	H22年	H27年	H28年	H29年	H30年	令和元	令和2	令和3	R3全国	
種 苗 費	2,628	3,914	4,706	2,648	1,965	2,352	6,500	4,285	5,049	5,373	5,484	3,788	
肥 料 費	9,365	9,011	10,569	10,501	9,790	11,259	10,167	10,469	11,197	11,283	11,767	9,091	
農 業 薬 剤 費	9,280	9,035	7,942	8,591	7,856	9,692	11,752	8,980	7,795	8,079	10,684	7,864	
光 熱 動 力 費	3,294	3,554	3,176	4,925	7,682	6,856	7,386	7,799	5,100	4,579	5,170	5,101	
諸 材 料 費	3,810	3,226	4,019	2,814	3,364	3,227	2,145	2,827	1,893	2,139	1,987	1,924	
土地改良及び水利費	2,203	2,253	2,377	985	1,184	1,068	1,842	2,235	1,599	1,451	1,301	4,335	
賃借料及び料金	6,343	7,782	4,894	11,895	2,615	2,976	10,005	4,693	8,739	7,581	8,073	11,407	
物件及び公課諸負担	2,311	3,588	2,679	5,562	3,599	4,399	3,210	4,587	2,144	1,628	1,888	2,093	
建 物 費	8,875	9,711	3,520	7,139	9,306	9,048	4,804	7,144	2,374	1,971	1,670	4,009	
建物及び土地改良費	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
農 機 具 費	35,182	44,331	34,398	41,707	46,570	36,817	46,418	42,436	31,452	30,595	23,403	24,130	
生産管理費	144	22	281	161	850	1,055	930	1,208	299	489	506	433	
労 働 費	110,732	96,542	80,375	74,971	67,861	67,126	72,266	72,130	73,187	68,441	62,902	33,506	
費用合計	194,167	192,969	158,936	171,899	162,642	155,875	177,425	168,793	150,828	143,609	140,639	111,460	
副産物価額	2,462	2,201	3,878	2,409	1,875	2,623	5,507	2,565	1,211	1,274	1,561	2,050	
生産費 (副産物価額差引)	191,705	190,768	155,058	169,490	160,767	153,252	171,918	166,228	149,617	142,335	139,078	109,410	
支払利子・地代算入生産費	192,048	191,880	157,683	171,094	164,886	157,895	177,704	171,530	157,067	149,915	146,756	114,792	
自己資本利子	-	13,522	10,741	7,196	8,063	6,742	8,364	6,861	5,916	5,168	5,388	5,144	
自作地地代	-	15,099	11,622	12,277	6,950	6,862	4,581	5,691	4,483	4,126	3,174	8,209	
全算入生産費	222,928	220,501	180,046	190,567	179,899	171,499	190,649	184,082	167,466	159,209	155,318	128,145	
60kg 当り	生産費 (副産物価額差引)	22,710	21,617	18,246	20,561	20,633	18,194	21,601	21,326	16,903	16,981	17,987	12,601
	支払利子・地 代算入生産費	22,461	21,495	18,554	20,756	21,162	18,745	22,328	22,006	17,745	17,885	18,980	13,220
	全算入生産費	26,073	24,702	21,186	23,118	23,089	20,361	23,954	23,616	18,920	18,994	20,088	14,758

(資料：農林水産統計)

注)平成6年から、600kg以上販売かつ対平年収量増減率±20%未満の販売農家を調査対象とした。

## ウ 水稻作作業別の労働時間

(単位：10a当たり時間)

	H7年	H12年	H17年	H22年	H27年	H28年	H29年	H30年	令和元	令和2	令和3	R3全国
種 子 予 措	5.2	4.6	0.7	0.5	0.8	0.8	0.5	0.6	0.3	0.3	0.3	0.2
育 苗			5.5	4.5	3.9	3.9	3.3	3.9	3.6	4.0	3.3	2.6
耕 起 ・ 整 地	9.5	8.2	5.3	9.2	8.2	7.5	6.4	6.8	5.3	4.2	3.8	3.1
施 肥	—	—	1.7	1.7	1.5	1.7	1.2	1.2	1.1	1.5	1.4	0.8
			追肥	1.0	0.4	0.1	0.2	0.2	0.2	0.4	0.5	0.5
田 植	8.6	7.1	7.0	7.7	6.0	6.0	4.3	5.3	3.6	3.1	3.9	2.7
除 草	5.7	6.3	3.9	3.9	2.7	2.7	2.3	2.7	2.6	1.8	1.7	1
管 理	9.1	10.1	9.9	7.0	8.1	7.8	9.3	7.2	10.9	8.1	7.8	5.7
防 除	—	—	1.4	1.3	2.9	2.9	3.7	2.4	1.2	1.8	2.0	0.5
刈 取 脱 穀	13.1	10.5	9.7	7.8	7.9	8.0	6.3	7.6	5.2	5.5	4.7	2.7
乾 燥 ・ 調 整	—	—	3.4	2.5	3.7	3.6	3.4	4.2	5.2	3.7	3.1	1.2
そ の 他	13.9	12.3	0.6	0.4	0.7	0.7	0.5	0.8	1.5	1.2	0.8	0.4
合 計	65.1	59.1	50.0	45.5	46.5	45.8	41.4	42.9	38.8	35.6	32.9	21.1

(資料：農林水産統計)

注)平成6年から、600kg以上販売かつ対平年収量増減率±20%未満の販売農家を調査対象とした。

## (9) 農地の流動化と作業受委託

### ア 地目別の利用権設定面積及び利用権設置率(農林別)

(単位:ha,%)

	区 分	農用地	田	畑	樹園地	その他
賀 茂	農用地区域面積	1,161	469	171	519	2
	利用権設定面積	82	46	17	19	-
	利用権設定率	7.1	9.9	9.7	3.7	-
東 部	農用地区域面積	7,078	3,640	2,061	1,377	1
	利用権設定面積	839	411	268	160	-
	利用権設定率	11.8	11.3	13.0	11.6	-
富 士	農用地区域面積	4,355	1,427	1,512	1,341	74
	利用権設定面積	179	24	120	35	-
	利用権設定率	4.1	1.7	7.9	2.6	-
中 部	農用地区域面積	5,681	427	80	5,074	101
	利用権設定面積	456	27	70	359	-
	利用権設定率	8.0	6.3	87.9	7.1	-
志太榛原	農用地区域面積	10,487	3,115	470	6,874	28
	利用権設定面積	2,864	893	700	1,270	-
	利用権設定率	27.3	28.7	149.0	18.5	-
中 遠	農用地区域面積	16,713	8,346	2,234	6,107	26
	利用権設定面積	6,288	3,818	1,371	1,099	-
	利用権設定率	37.6	45.7	61.3	18.0	-
西 部	農用地区域面積	12,757	3,085	3,731	5,808	134
	利用権設定面積	1,498	246	727	525	-
	利用権設定率	11.7	8.0	19.5	9.0	-
計	農用地区域面積	58,232	20,508	10,258	27,100	366
	利用権設定面積	12,205	5,465	3,272	3,468	-
	利用権設定率	21.0	26.6	31.9	12.8	-

(資料:農地利用課・農業ビジネス課、令和2年度)

注)農用地区域面積は、令和2年度の農業振興地域内農用地区域面積  
数字はラウンドしているため、合計が一致しない場合がある

### イ 水稲作作業委託農家数

(単位:戸)

区分	委託農家数	全作業	部分作業					
			育苗	耕起・代かき	田植	防除	稲刈・脱穀	乾燥・調整
平成22年	10,180	477	4,160	2,643	2,550	659	6,360	7,993
平成27年	6,470	368	2,550	1,470	1,560	548	4,142	5,068
令和 2年	-	-	-	-	-	-	-	-

(資料:農林業センサス)

### ウ 水稲作作業受託農家数

(単位:戸)

区分	受託農家数	全作業	部分作業					
			育苗	耕起・代かき	田植	防除	稲刈・脱穀	乾燥・調整
平成22年	1,650	108	377	905	827	143	1,171	978
平成27年	1,572	177	386	791	802	163	1,119	902
令和 2年	1,179	197	274	582	532	119	818	643

(資料:農林業センサス)

### エ 水稲作作業受託面積

(単位:ha)

区分	面積計	全作業	部分作業					
			育苗	耕起・代かき	田植	防除	稲刈・脱穀	乾燥・調整
平成22年	6,892	171	764	781	709	161	1,991	2,315
平成27年	11,341	206	2,333	642	664	2,302	2,098	3,096
令和 2年	7,583	193	1,042	452	471	2,244	1,364	1,817

(資料:農林業センサス)

### オ 主要農業機械所有台数

(単位:台)

	動力耕うん機	乗用型トラクター			動力噴霧器	田植機	ハインダー	自脱型コンバイン	普通型コンバイン	米麦用乾燥機
		15ps未満	15ps以上	計						
昭和60年	68,295	10,908	11,945	22,853	69,170	33,742	31,286	9,499	—	19,561
平成 2年	61,956	12,150	16,424	28,574	61,513	35,401	30,211	11,870	—	15,437
平成 7年	—	9,369	16,889	26,258	53,992	25,361	—	10,791	—	—
平成12年	34,267	8,605	18,737	27,342	41,713	24,637	14,737	11,619	—	9,568
平成17年	—	12,017	17,247	29,264	*37,121	19,938	—	7,150	4,851	—
平成22年	—	—	—	22,032	—	16,290	—	9,704		—
平成27年	—	—	—	16,266	—	12,228	—	7,767		—
令和 2年	—	—	—	—	—	—	—	—		—

注1) 12年より販売農家のみが調査対象

(資料:農林業センサス)

2) \*平成17年は動力防除機の数値

## 2 米の農産物検査状況

### (1) 種類別農産物検査状況

(単位:t)

年産	種類	計	玄米				飼料用		
			水稲うるち	水稲もち	醸造用	陸稲うるち	陸稲もち	もみ	玄米
平成14年		18,003	17,182	334	487	-	0.3	-	-
平成15年		16,351	15,624	264	463	-	0	-	-
平成16年		19,470	18,458	599	411	-	2	-	-
平成17年		20,035	18,930	646	458	-	1	-	-
平成18年		20,149	19,000	533	616	-	-	-	-
平成19年		20,737	19,621	438	678	-	-	-	-
平成20年		20,887	19,680	474	733	-	0	-	-
平成21年		20,884	19,876	487	521	-	-	-	-
平成22年		20,615	19,757	448	410	-	-	-	-
平成23年		21,662	20,884	463.3	314	-	-	-	-
平成24年		22,479	21,465	587	426	-	-	-	-
平成25年		23,612	22,490	566	555	-	-	-	-
平成26年		25,018	23,763	503	752	-	-	2,218	878
平成27年		24,265	22,863	549	853	-	-	2,634	1,813
平成28年		25,673	24,266	598	809	-	-	3,463	2,023
平成29年		24,494	23,063	586	845	-	-	4,604	1,891
平成30年		23,511	22,384	502	604	-	-	3,738	1,936
令和元年		25,590	24,413	522	655	-	-	4,387	2,093
令和2年		22,980	22,040	451	489	-	-	3,424	1,816
令和3年		24,747	23,762	457	528	-	-	3,894	2,160
令和4年		26,114	25,051	446	617	-	-	4,341	2538

注)令和4年産は4年12月末時点

(資料:農産物検査結果)

### (2) 農産物検査結果(玄米)

年産	種類	合計数量 (t)	等級比率(%)						
			特上	特等	1等	2等	3等	規格外	等外
平成14年		18,003	-	-	56.9	36.6	6.2	0.3	-
平成15年		16,351	-	0.0	73.1	23.5	3.2	0.2	-
平成16年		19,470	-	0.0	58.9	37.3	3.6	0.2	-
平成17年		20,035	-	-	64.8	29.5	5.2	0.4	-
平成18年		20,149	-	0.0	71.3	25.1	3.4	0.3	-
平成19年		20,737	-	0.0	71.5	25.5	2.5	0.4	-
平成20年		20,887	-	-	72.6	24.9	2.2	0.2	-
平成21年		20,884	-	-	80.4	16.4	2.3	1.0	-
平成22年		20,615	-	-	62.0	32.9	3.8	1.3	-
平成23年		21,662	-	0.0	67.5	28.2	3.2	1.1	-
平成24年		22,479	-	0.0	72.6	24.1	2.8	0.5	-
平成25年		23,612	-	0.1	68.4	27.0	4.1	0.3	-
平成26年		25,018	-	0.4	79.2	18.4	1.8	0.2	-
平成27年		24,265	-	0.3	78.5	18.1	2.9	0.2	-
平成28年		25,673	-	0.1	84.9	13.1	1.6	0.2	-
平成29年		24,494	-	0.2	84.3	13.7	1.5	0.2	-
平成30年		23,511	-	0.3	79.2	18.1	2.3	0.1	-
令和元年		25,590	-	0.1	74.4	19.9	2.9	0.3	-
令和2年		22,980	-	0.1	77.1	18.1	3.9	0.9	-
令和3年		24,747	-	0.1	84.5	12.2	2.7	0.5	-
令和4年		26,114	-	0.0	80.5	15.8	3.1	0.5	-

注)令和4年産は3年12月末時点

(資料:農林水産省)

### (3) 銘柄別農産物検査結果（玄米）

品種	令和3年産					令和4年産						
	検査数量 (t)	等級比率 (%)					検査数量 (t)	等級比率 (%)				
		特等	1等	2等	3等	規格外		特等	1等	2等	3等	規格外
コシヒカリ	13780		87.4	10.3	1.7	0.6	14634		83.9	13.6	2.2	0.4
きぬむすめ	3342		83.7	12.2	3.5	0.5	3771		78.2	16.7	4.5	0.6
あいちのかおり	1350		78.0	17.3	4.2	0.5	1497		65.1	29.4	4.7	0.7
にこまる	1607		87.1	9.0	3.8	0.2	1853		84.3	11.7	2.5	1.5
にじのきらめき	-		-	-	-	-	847		81.0	17.4	1.7	0.0
キヌヒカリ	317		83.6	15.5	0.9	0.0	261		60.9	35.6	3.1	0.0
歓喜の風	963		96.3	3.5	0.3	0.0	571		92.8	6.5	0.7	0.0
ミルキークイーン	308		76.3	19.2	2.9	1.6	375		85.1	13.6	1.3	0.0
ヒノヒカリ	233		92.3	7.7	0.0	0.0	231		94.8	4.8	0.9	0.0
ひとめぼれ	201		66.2	28.9	4.0	0.5	218		61.9	30.3	8.3	0.0
つくばSD1号	56		44.6	55.4	0.0	0.0	24		4.2	95.8	0.0	0.0
なつしずか	62		100.0	0.0	0.0	0.0	77		96.1	0.0	3.9	0.0
あさひの夢	57		75.4	26.3	0.0	0.0	13		76.9	0.0	0.0	30.8
あきたこまち	24		66.7	33.3	0.0	0.0	19		26.3	68.4	5.3	0.0
LGCソフト	45		71.1	24.4	4.4	0.0	43		76.7	23.3	0.0	0.0
いのちの壺	7		85.7	0.0	14.3	0.0	10		100.0	10.0	0.0	0.0
はいごころ	2		100.0	0.0	0.0	0.0	2		100.0	0.0	0.0	0.0
ふくのいち	1		0.0	54.1	45.8	0.0	1		38.9	44.4	16.7	0.0
みつひかり	3		66.7	33.3	-1.0	0.0	3		100.0	0.0	0.0	0.0
山田錦	274	3.9	75.5	10.9	9.5	0.0	371	0.0	68.7	15.4	15.6	0.3
誉富士	225	5.5	57.8	18.7	17.3	0.4	224	4.5	65.6	13.8	16.5	0.0
五百万石	17		11.8	76.5	5.9	0.0	17	0.0	0.0	11.8	88.2	0.0
峰の雪もち	235		80.4	15.7	2.6	1.3	215		76.7	18.1	4.2	0.9
葵美人	52		53.8	42.3	3.8	1.9	63		55.6	36.5	7.9	0.0
するがもち	0		0.0	100.0	0.0	0.0	-		-	-	-	-

注)令和4年産は4年12月末時点

(資料:農産物検査結果)

#### (4) 農産物検査を行う産地品種銘柄

		令和5年産	
		必須銘柄	選択銘柄
水稲	うるち玄米 うるちもみ	あいちのかおり あさひの夢 キヌヒカリ きぬむすめ コシヒカリ にこまる ひとめぼれ ヒノヒカリ ミルクークイーン	あきたこまち いのちの壺 LGCソフト 吟おうみ きんのめぐみ つくばSD1号 なつしずか ふくのいち みつひかり 歓喜の風 はいごころ 縁結び ゆめみしま にじのきらめき
	醸造用玄米	五百万石 誉富士 山田錦	令和誉富士
	もち玄米 もちもみ	するがもち 峰の雪もち	葵美人
麦類	普通小麦	イワイノダイチ	農林61号 きぬあかり
	普通小粒大麦		シュンライ
	普通大粒大麦		ミカモゴールドデン
大豆	大豆	フクユタカ	

注1) 産地品種銘柄「静岡県 あいちのかおり」として扱われる品種  
あいちのかおり、あいちのかおりSBL

注2) 産地品種銘柄「静岡県 みつひかり」として扱われる品種  
みつひかり2003、みつひかり2005

注3) 必須銘柄：概ね産地の全域で検査実績があり、登録検査機関が銘柄検査の  
実施義務を負う銘柄。

選択銘柄：登録検査機関が銘柄検査の実施を選択できる銘柄。

### 3 水稻種子生産状況

#### (1) 水稻採種ほ設置面積

(単位:a)

種子組合	H17	H22	H28	H29	H30年	R1	R2	R3	R4年
北 駿	2,089	2,284	1,624	1,624	1,624	1,901	1,983	2,049	2,154
菊 川	1,628	1,559	1,242	1,299	1,242	1,325	1,389	1,484	1,620
森	833	760	505	520	505	-	-	-	-
藤 枝	2,055	2,211	1,968	2,207	1,968	1,939	1,984	1,848	1,816
袋 井	715	715	680	818	680	679	600	500	500
計	7,320	7,529	6,019	6,486	6,019	5,844	5,956	5,881	6,090

(資料:静岡県米麦協会)

#### (2) 水稻種子確保状況

区 分	H17	H22	H28	H29	H30年	R1	R2	R3	R4
採種ほ面積 a	7,320	7,529	6,019	6,486	6,486	5,844	5,956	5,881	6,090
種子確保量 kg	364,988	378,226	331,364	355,784	343,960	316,700	329,840	321,770	未 公 表
県内種子生産量 kg	278,400	294,180	269,200	270,540	268,800	255,040	245,900	232,680	
低温貯蔵等種子 kg	26,560	1,586	3,344	13,664	1,860	0	6,660	9,240	
県外産種子 kg	60,028	82,460	111,520	71,580	73,300	61,660	77,280	79,850	
種子配布量 kg	340,272	350,724	346,854	328,592	319,120	310,166	310,599	284,816	
県内産種子占有率 %	81.8	83.9	77.6	82.3	84.2	82.2	79.2	81.7	
種子更新率 %	47.7	60.9	62.5	63.8	62.3	64.0	63.6	63.6	

注 1) 県内産種子占有率は、県内種子生産量÷種子配布量

(資料:静岡県米麦協会)

2) 配布量には、県外販売分は含まない

(3) 水稲種子配布実績

(単位:kg)

品種名	H28播き	H29播き	H30播き	R1播き	R2播き	R3播き	R4播き
なつしずか	672	680	628	532	448	452	436
ひとめぼれ	13,748	12,604	12,192	11,368	11,436	11,044	10,268
キヌヒカリ	30,728	25,700	24,160	22,968	21,428	21,008	16,788
コシヒカリ	139,476	139,300	138,996	136,652	132,920	126,664	124,148
あさひの夢	560	—	—	—	—	—	—
きぬむすめ	39,484	41,016	44,598	47,916	50,488	54,048	53,628
にこまる	17,980	18,388	19,144	18,740	22,756	23,092	21,500
あいちのかおりSBL	48,120	45,260	42,292	42,144	37,664	34,548	28,844
ヒノヒカリ	4,272	3,752	3,580	3,760	3,656	4,000	3,416
あきたこまち	1,124	748	696	664	700	636	628
ミルキークイーン	1,188	1,500	1,480	1,780	1,868	1,980	2,444
五百万石	288	164	152	160	156	188	132
若水	—	—	—	—	—	—	—
山田錦	256	60	—	—	—	—	—
誉富士	1,964	1,980	1,984	2,056	2,212	2,140	2,104
峰の雪もち	5,324	5,390	5,294	6,376	7,176	4,380	6,476
するがもち	6,820	6,182	—	—	—	—	—
葵美人	—	—	904	4,700	4,588	4,557	4,106
ヒヨクモチ	2,376	3,072	7,730	2,890	2,706	2,766	1,776
あきだわら	5,160	5,200	2,980	5,140	5,600	10,740	2,920
もちだわら	—	—	—	—	—	—	—
どんとこい	—	—	—	300	40	20	80
その他品種	100	488	4,564	1,600	4,480	6,196	13,036
合計	319,640	311,484	311,374	309,746	310,322	308,459	292,730

注) 平成21年まではあいちのかおり、平成22年以降はあいちのかおりSBL

(資料: 静岡県経済連)

(4) 水稲奨励品種の改廃

種類	品種名	採用した年	除外した年	種類	品種名	採用した年	除外した年	種類	品種名	採用した年	除外した年
うるち	愛知旭	昭和7年	昭和43年	うるち	アキバエ	昭和34年	昭和37年	うるち	どんとこい	平成6年	平成16年
	大正赤穂66号	昭和11年	昭和33年		北真千力	昭和34年	昭和43年		ふじの舞	平成6年	平成16年
	農林1号	昭和15年	昭和33年		コシヒカリ	昭和36年	昭和47年		五百万石	平成12年	
	ハツシモ	昭和20年	昭和30年		ホウヨク	昭和38年	昭和46年		あさひの夢	平成13年	平成24年
	農林29号	昭和21年	昭和48年		ふじこがね	昭和38年	昭和48年		なつしずか	平成13年	
	農愛3号	昭和22年	昭和34年		クサナギ	昭和38年	昭和55年		誉富士	平成21年	令和4年
	農林23号	昭和22年	昭和35年		ハルカゼ	昭和42年	昭和48年		あいちのかおりSBL	平成22年	
	藤坂5号	昭和25年	昭和33年		玉栄	昭和44年	昭和52年		にこまる	平成23年	
	ホマサリ	昭和25年	昭和33年		スルガワセ	昭和44年	昭和52年		きぬむすめ	平成24年	
	邦栄6号	昭和25年	昭和38年		晴々	昭和44年	平成5年		にじのきらめき	令和2年	
	トネワセ	昭和25年	昭和59年		しずたま	昭和46年	平成3年	静系(酒)97号	令和3年		
	シモツキ	昭和26年	昭和37年		アキツホ	昭和47年	昭和59年	もち	旭糯	昭和7年	昭和47年
	昭南	昭和26年	昭和38年		ニホンマサリ	昭和49年	平成3年		大正糯30号	昭和15年	昭和33年
	金南風	昭和26年	昭和55年		フジヒカリ	昭和52年	昭和62年		祝糯	昭和27年	昭和38年
	豊千本	昭和27年	昭和34年		シズヒカリ	昭和55年	平成6年		コトブキモチ	昭和28年	昭和52年
	ミホニシキ	昭和27年	昭和47年		コシヒカリ	昭和57年			志太糯	昭和33年	昭和34年
	黄金丸	昭和28年	昭和35年		初星	昭和58年	平成5年		信濃糯3号	昭和34年	昭和52年
	ヤエホ	昭和28年	昭和47年		黄金晴	昭和58年	平成14年		ゆたかもち	昭和38年	昭和58年
	フクスケ	昭和30年	昭和33年		月の光	昭和61年	平成9年		オトメモチ	昭和52年	平成5年
	農林17号	昭和30年	昭和37年		キヌヒカリ	平成3年	令和3年		するがもち	昭和52年	平成30年
かほり	昭和30年	昭和38年	ひとめぼれ	平成4年		葵糯	昭和58年		平成6年		
白菊	昭和31年	昭和44年	若水	平成4年	平成12年	峰の雪もち	平成4年				
ハマユウ	昭和32年	昭和43年	あいちのかおり	平成4年	平成22年	静太郎糯	平成6年	平成11年			
京見17号	昭和33年	昭和35年	葵の風	平成6年	平成11年	葵美人	平成28年				

(資料: 農芸振興課)

## 4 麦・大豆生産の状況

### (1) 麦・大豆の作付面積及び収穫量

	麦計								大豆	
	R3産		R4産		小麦		二条大麦			
	R3産	R4産	R3産	R4産	R3産	R4産	R3産	R4産	R3産	R4産
作付面積 (ha)	762	766	744	749	18	17	1	-	244	203
うち田	x	x	715	717	17	x	1	x	198	157
うち畑	x	x	29	32	1	x	0	x	46	46
単収 (kg/10a)	-	-	311	247	256	212	129	156	82	72
収穫量 (t)	2357	1886	2310	1850	46	36	1	-	200	146
全国作付面積 (千ha)	283.0	290.6	220.0	227.3	38.2	38.1	18.1	19.3	146.2	151.6
全国単収 (kg/10a)	-	-	490	437	409	397	304	337	169	160
全国収穫量 (千t)	1311.0	1227.0	1078.0	993.5	156.2	151.2	55.0	65.1	246.5	242.8

注1) 麦は子実用

(資料: 農林水産統計)

注2) 「0」は1未満の数値。「x」は秘密保護の観点から公表されない数値。

### (2) 小麦生産状況

年産	H7	H12	H17	H22	H27	H30	R1	R2	R3	R4
作付面積 (ha)	509	1010	945	797	771	758	791	727	744	749
うち田	-	-	860	776	715	721	753	699	715	717
うち畑	-	-	85	21	56	37	38	28	29	32
単収 (kg/10a)	261	338	245	112	117	229	300	226	311	247
収穫量 (t)	1330	3410	2320	895	902	1740	2370	1640	2310	1850
全国作付面積 (千ha)	151.3	183.0	213.5	208.1	213.1	211.9	211.6	212.6	220.0	227.3
全国単収 (kg/10a)	293	376	410	276	471	361	484	444	490	437
全国収穫量 (千t)	443.6	688.2	874.7	571.3	1004.0	764.9	1025.0	943.8	1078.0	993.5

注) 子実用

(資料: 農林水産統計)

### (3) 大豆生産状況

年産	H7	H12	H17	H22	H27	H30	R1	R2	R3	R4
作付面積 (ha)	357	578	462	369	319	260	251	223	244	203
うち田	177	433	348	308	240	189	188	163	198	157
うち畑	180	145	114	61	79	71	63	60	46	46
単収 (kg/10a)	149	162	123	93	59	69	76	76	82	72
収穫量 (t)	532	936	568	343	188	179	191	169	200	146
全国作付面積 (千ha)	68.6	122.5	134.0	137.7	142.0	146.6	143.5	141.7	146.2	151.6
全国単収 (kg/10a)	173	192	168	162	171	145	148	154	169	160
全国収穫量 (千t)	119.0	235.0	225.0	222.5	242.4	212.9	212.3	218.9	246.5	242.8

(資料: 農林水産統計)

# 5 主要農作物奨励品種

## (1) 水稲

種類	熟期区分	品種名	採用年度	来歴 (育成場所・育成年)	田植期 月・日	出穂期 月・日	成熟期 月・日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m <sup>2</sup>	草型	芒の 多少・ 長短	ふ 先 色	脱粒 の 難 易	玄米の 千粒重 g	品質	食味	諸 抵 抗 性										概評		適地	
																		葉い もち	穂い もち	白葉 枯病	紋枯病	縞葉 枯病	イネカ ラバエ	耐冷 (寒)性	高温 耐性	耐倒 伏性	穂発 芽性	優点	欠点		
水稲 うるち	極 早 生	ひとめぼれ	H4	コシヒカリ×初星 宮城古川農試 S57	6. 1 (5. 12)	8. 6 (8. 5)	9. 12 (9. 17)	82 (78)	20. 5 (19. 8)	382 (400)	偏穂数型	稀・短	黄白	難	23. 7 (22. 7)	中の中	上の上	やや弱	やや弱	やや弱	中	罹病性	-	強	中	やや弱	難	良食味 耐冷性強	いもち病にやや弱い 耐倒伏性やや弱	県下一円	
		なつしずか	H13	(関東136号×コシヒカリ) ×チツヒカリ 静岡県農試 H13	6. 1 (4. 20)	8. 1 (7. 8)	9. 4 (8. 11)	69 (71)	20. 0 (18. 6)	365 (477)	偏穂数型	稀・短	黄白	難	22. 6 (21. 8)	上の中	上の中	極強	強	やや弱	中	罹病性	-	やや弱	強	やや強	やや難	いもち病に強い 耐倒伏性やや強 高温耐性強	耐冷性やや弱	平坦地一円	
		五百万石 (酒米)	H12	菊水×新200号 新潟農試 S32	6. 1 (5. 12)	8. 2 (7. 30)	9. 10 (9. 14)	84 (84)	22. 7 (21. 8)	269 (307)	偏穂重型	稀・短	黄白	難	25. 1 (25. 8)	中の上	-	中	やや弱	弱	中	罹病性	-	やや弱	-	中	中	酒造好適米	耐冷性やや弱 穂いもちにやや弱い	県下一円	
	中 生	コシヒカリ	S57	農林22号×農林1号 福井県農試 S31	6. 1 (4. 20)	8. 8 (7. 18)	9. 12 (8. 23)	87 (84)	19. 5 (19. 5)	344 (408)	偏穂数型	稀・短	黄白	難	22. 9 (21. 8)	中の中	上の上	やや弱	弱	中	中	罹病性	中	強	中	弱	やや難	良食味 耐冷性強	いもち病に弱い 耐倒伏性弱	高冷地 平坦地排水良好 田	
		にじのきらめき	R2	なつほのか×北陸223号 中央農研センター(北陸拠 点) H30	6. 2 (4. 20)	8. 8 (7. 17)	9. 15 (8. 26)	68 (66)	20. 2 (20. 3)	306 (393)	中間型	稀・短	黄白	難	25. 3 (23. 8)	上の中	上の上	中	やや強	やや弱	中	抵抗性	-	-	やや強	強	難	良食味、多収 耐倒伏性やや強 高温耐性やや強 縞葉枯病抵抗性	白葉枯病にやや弱い	県下一円	
		きぬむすめ	H24	キヌヒカリ×愛知92号 (独)九州沖縄農研センター H17	6. 1	8. 18	9. 25	80	18. 3	308	中間型	稀・短	黄白	難	22. 8	中の上	上の上	やや弱	中	やや弱	中	罹病性	-	-	中	中	中	良食味	葉いもちにやや弱い	平坦地一円	
	晩 生	あいちのかおり SBL	H23	あいちのかおり×F3(あ いちのかおり*2//愛知78 号/あいちのかおり) 愛知県農試 H11	6. 1	8. 24	10. 5	81	21. 0	334	中間型	少・短	黄白	難	25. 6	中の上	上の上	やや弱	やや強	やや強	やや強	抵抗性	-	-	中	中	やや難	良食味 縞葉枯病抵抗性 穂いもちにやや強い	葉いもちにやや弱い	平坦地一円	
		にこまる	H23	は系626×北陸174号 九州農試 H17	6. 1	8. 26	10. 7	85	19. 7	303	偏穂重型	稀・短	黄白	難	24. 0	上の中	上の上	やや弱	やや弱	中	中	罹病性	-	-	中	中	やや難	良食味	いもち病にやや弱い	平坦地一円	
		令和誉富士	R3	愛知酒117号×YM310(山 田錦×線照射突然変異系 統) R3	6. 1	8. 25	10. 3	88	18. 6	359	中間型	無	黄白	難	28. 0	上の中	-	やや弱	-	-	-	-	-	-	-	-	やや強	やや難	酒造好適米 玄米外観品質良好 耐穂発芽性やや難	いもち病にやや弱い	平坦地一円
		誉富士 (酒米)	H21	山田錦放射線突然変異 静岡県農試 H17	6. 1	8. 24	10. 4	74	20. 0	366	偏穂数型	無	黄白	難	27. 7	中の中	-	やや弱	やや弱	-	弱	罹病性	-	-	-	強	やや易	酒造好適米 耐倒伏性強	いもち病にやや弱い 穂発芽性やや易	平坦地一円	
	極 早 生	峰の雪もち	H4	奥羽302号×ヒメノモチ 北陸農試 H4	6. 1 (5. 12)	8. 3 (8. 1)	9. 8 (9. 12)	55 (61)	18. 4 (19. 2)	254 (372)	偏穂重型	無	黄白	難	23. 5 (23. 1)	中の上	上の中	弱	やや弱	やや弱	中	罹病性	-	-	-	強	やや難	良質 餅質良 耐倒伏性強	いもち病にやや弱い	県下一円	
	晩 生	莫美人	H28	静系籾13号×中部籾93号 静岡県農林技研 H28	6. 1	8. 23	10. 7	76	21. 1	312	穂重型	稀・短	褐	難	24. 6	中の上	上の中	中	-	-	-	抵抗性	-	-	-	強	やや難	餅質良 縞葉枯病抵抗性 耐倒伏性強	-	平坦地一円	

< > 平坦地早期 ( ) 高冷地

## (2) 小麦

品種名	採用年度	来歴 (育成場所・育成年)	播性 程度	は種期 月・日	出穂期 月・日	成熟期 月・日	叢生	株の 開閉	穂長 cm	穂の 強弱	穂長 cm	穂数 本/m <sup>2</sup>	穂型	芒の 長短	ふ色	粒色	品質	千粒重 g	容積重 g/L	穂発芽 性	脱粒性	諸抵抗性						概評		適地
																						うどん こ病	赤かび 病	赤さび 病	縮萎縮 病	耐湿性	耐倒伏 性	優点	欠点	
きぬあかり	H28	きぬの波×西海184号 愛知県農総試 B21	II	11.22	4.4	5.29	やや匍	やや閉	81	やや強	9.9	381	紡錘	中	黄	黄褐	上の中	43.5	799	難	中	やや弱	中	中	強	やや強	やや強	早生、安定した品質、多収、良質な生地物性	低タンパク質含量 うどんこ病にやや弱い	県下一円

注)播性程度とは、幼穂形成にあたり生育初期において要求する低温期間の長さを示すものであり、I (短い)～VII (長い) の7段階に分類される。

## (3) 大豆

品種名	採用年度	来歴 (育成場所・育成年)	生態型	は種期 月・日	開花期 月・日	成熟期 月・日	主莖長 cm	分枝数 本	主莖節 数	毛茸の有無及び色		花色	熟莢色	百粒重 g	粒の 大小	粒形	粒色	臍色	品質	裂莢性	諸抵抗性						概評		適地
										多少	色										べと病	さび病	紫斑病	ウイルス病	耐倒伏性	裂皮	優点	欠点	
フクユタカ	S57	岡大豆×白大豆3号 九州農試 S55	IVc 秋大豆	7.1	8.18	11.5	79	5.5	15.6	多	白	紫	淡褐	29.3	中の大	球	黄白	淡褐	上の中	中	中	中	強	中	やや強	少	良質、多収	裂皮粒が発生しやすい 褐目	県下一円

注)生態型におけるIVcとは、開花までの日数が約90日、結実日数が80日以上であることを示す。

### 第3 参考資料

#### 1 令和4年産水稻の生育概況

##### (1) 早期栽培 コシヒカリ

ア 試験場所 農林技術研究所 三ヶ野圃場 (磐田市三ヶ野)

##### イ 耕種概要

(ア) 移植期 令和4年4月21日

(イ) 移植方法 稚苗1株3本手植え 栽植密度 18.5株/m<sup>2</sup> (平成23年以前は22.2株/m<sup>2</sup>)

(ウ) 施肥法 (窒素成分量 kg/a)

基肥 (代かき時)	穂肥 (出穂前25日頃)
0.40	0.40

注) 平成17年以前は基肥: 0.35kg/a、穂肥Ⅰ (出穂前18日頃): 0.30kg/a、穂肥Ⅱ (出穂前10日頃): 0.20kg/a

(エ) 中干し期間

5月31日～6月6日

##### ウ 生育概況

- ・育苗期の4月上中旬は、気温がやや高め、日照時間が多く推移したため、苗の生育は平年並みとなった。
- ・移植直後の4月下旬から5月上旬にかけては、気温がやや高め、日照時間は平年並みに推移し、生育は順調であった。
- ・5月中下旬にかけては、気温はやや高め、日照は平年並みに推移したため、移植後40日の草丈は長く、茎数は多くなった。
- ・6月から7月にかけては、高温、多日照に推移し、出穂期は6日早まった。
- ・8月上旬は高温、日照は平年並みに推移したため、成熟期は6日早まった。
- ・穂数は平年並み、穂長はやや長く、玄米千粒重はやや重く、屑米はやや少なく、収量は平年並となった。
- ・玄米外観品質は平年並みとなった。
- ・イネカメムシによる玄米の吸汁被害が目立った。
- ・高温・寡日照により紋枯病が目立った。

##### エ 調査結果

早期栽培コシヒカリの生育概況

	草丈 (cm)			茎数 (本/m <sup>2</sup> )			出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	倒伏程度
	+40	+50	+60	+40	+50	+60						
平年	36	46	59	352	496	520	7.18	8.23	84	19.0	408	1.7
令和3年	33	39	53	200	323	390	7.18	8.24	85	19.9	321	2.2
<b>本年</b>	<b>37</b>	<b>46</b>	<b>59</b>	<b>461</b>	<b>624</b>	<b>620</b>	<b>7.12</b>	<b>8.17</b>	<b>84</b>	<b>20.4</b>	<b>411</b>	<b>2.7</b>
平年比 (%)	103	100	100	131	126	119	-	-	100	107	101	-
平年差	-	-	-	-	-	-	-6	-6	-	-	-	1.0

	有効茎歩合 (%)	玄米重 (kg/a)	玄米千粒重 (g)	屑米重歩合 (%)	玄米外観品質
平年	76	55.5	21.8	2.9	5.2
令和3年	82	55.1	21.7	3.1	5.5
<b>本年</b>	<b>66</b>	<b>53.1</b>	<b>22.6</b>	<b>2.1</b>	<b>5.0</b>
平年比 (%)	-	96	104	-	-
平年差	-10.1	-2.4	0.8	-0.8	-0.2

## (2) 普通期栽培

### ア 試験場所

農林技術研究所 三ヶ野圃場 (磐田市三ヶ野)

### イ 耕種概要

#### (ア) 移植期

令和4年6月2日

#### (イ) 移植方法

稚苗1株3本手植え 栽植密度 18.5 株/m<sup>2</sup> (平成23年以前は 22.2 株/m<sup>2</sup>)

#### (ウ) 供試品種

熟 期	供 試 品 種
早生	コシヒカリ、にじのきらめき
中生	きぬむすめ
晩生	あいちのかおり SBL、にこまる

#### (エ) 施肥法 (窒素成分量 kg/a)

基 肥 (代かき時)	中 肥 (移植後 30~35 日頃)	穂 肥 (出穂前 25 日頃)
0.40	0.15 (早生品種除く)	0.40

#### (オ) 中干し期間

7月8日~7月15日

### ウ 生育概況

#### (1) 育苗期~初期生育

- ・育苗期の5月中下旬は、最低気温がやや高めで推移したため、苗は徒長気味であった。
- ・移植直後の6月上旬の気温はやや高く、多照傾向で推移したため、活着及びその後の生育は良好であった。

#### (2) 分けつ期~出穂期

- ・分けつ期の気象は、6月中旬は気温がやや高く、寡日照の傾向、6月下旬から7月上旬は気温は高く多日照で推移し、移植後40日の草丈はやや長く、茎数は多かった。
- ・7月上中旬の高温、寡日照により徒長し茎数が減少、紋枯病も多発した。
- ・7月下旬から8月上旬にかけては、高温、多日照の傾向で推移したため、出穂期は平年並みとなった。

#### (3) 登熟期~成熟期

- ・8月中旬から9月初旬にかけて高温、寡日照の傾向で推移したことから、早生品種の登熟期間はやや長くなったが、その後は多日照となり、晩生品種の成熟期は早まった。
- ・成熟期は平年と比較して、早生品種では3日から5日遅く、中生品種では1日遅く、晩生品種では3~4日早まった。

#### (4) 収量・品質

- ・早生品種は寡日照により栄養状態が悪くなった影響と、紋枯病が多発した影響で、穂数が少なく、穂長はやや長く、玄米千粒重は重く、屑米が少なく、収量は平年よりやや少なかった。
- ・中生品種及び晩生品種は、穂数が少なく、穂長はやや長く、玄米千粒重が重く、屑米が少なく、収量は平年よりやや少なかった。
- ・玄米外観品質は早生品種はやや良好、中晩生品種は白未熟粒が多くやや不良であった。

#### (5) 病害虫及びその他の障害

- ・イネカメムシによる玄米の吸汁被害が目立った。高温・寡日照により紋枯病が目立った。

## エ 調査結果

		にじのきらめき	コシヒカリ	きぬむすめ	あいちのかおりSBL	にこまる
移植後 40日 草丈	平年値* (cm)	69	64	63	56	64
	令和3年 (cm)	73	75	73	68	75
	本年 (cm)	66	67	64	58	70
	平年比 (%)	95	105	102	104	108
移植後 40日 茎数	平年値* (本/m <sup>2</sup> )	299	416	394	432	443
	令和3年 (本/m <sup>2</sup> )	392	399	383	455	396
	本年 (本/m <sup>2</sup> )	421	401	391	456	458
	平年比 (%)	141	96	99	105	103
出穂期	平年値* (月.日)	8.8	8.8	8.18	8.24	8.26
	令和3年 (月.日)	8.3	8.4	8.15	8.22	8.24
	本年 (月.日)	8.8	8.8	8.18	8.24	8.25
	本年平年差	0	0	0	0	-1
成熟期	平年値* (月.日)	9.15	9.12	9.25	10.5	10.7
	令和3年 (月.日)	9.11	9.10	9.24	10.5	10.7
	本年 (月.日)	9.20	9.15	9.26	10.1	10.4
	本年平年差	5	3	1	-4	-3
稈長	平年値* (cm)	68	87	80	81	85
	令和3年 (cm)	68	85	84	80	83
	本年 (cm)	72	86	78	79	84
	平年比 (%)	105	99	97	96	99
穂長	平年値* (cm)	20.2	19.5	18.3	21.0	19.7
	令和3年 (cm)	20.1	19.4	17.4	19.8	19.0
	本年 (cm)	20.6	20.8	18.4	20.5	22.6
	平年比 (%)	102	107	101	98	114
穂数	平年値* (本/m <sup>2</sup> )	306	344	308	334	303
	令和3年 (本/m <sup>2</sup> )	336	342	306	349	280
	本年 (本/m <sup>2</sup> )	286	260	256	266	249
	平年比 (%)	93	76	83	80	82
倒伏程度	平年値* (0~5)	0.0	2.6	0.4	0.9	0.9
	令和3年 (0~5)	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0
	本年 (0~5)	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0
	平年差	0.0	0.4	-0.4	-0.9	-0.9
玄米重	平年値* (kg/a)	52.0	52.9	54.8	54.2	54.6
	令和3年 (kg/a)	55.9	55.2	53.7	53.1	53.9
	本年 (kg/a)	49.8	46.3	50.2	47.8	49.2
	平年比 (%)	96	88	92	88	90
玄米 千粒重	平年値* (g)	25.3	22.9	22.8	25.6	24.0
	令和3年 (g)	25.6	24.0	22.5	25.5	24.9
	本年 (g)	26.1	24.8	24.4	25.3	24.1
	平年比 (%)	103	108	107	99	100
屑米重 歩合	平年値* (%)	1.7	3.1	2.2	1.1	2.6
	令和3年 (%)	0.5	1.3	1.9	0.4	0.6
	本年 (%)	0.5	0.7	0.7	0.5	0.9
	平年差	-1.2	-2.4	-1.5	-0.6	-1.7
玄米 外観質	平年値*	4.6	5.2	4.8	4.7	4.5
	令和3年	4.6	5.2	4.3	4.0	4.0
	本年	4.0	5.5	5.0	4.5	5.0
	平年差	-0.6	0.3	0.2	-0.2	0.5

\*) 平年値は平成9年から令和3年までの平均値。但し、平成9年以降に採用された品種については奨励品種決定試験に供試されてから令和3年までの間の平均値。

### (3) 病害虫の発生状況

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
葉いもち	平年：並 前年：やや早	平年：多 前年：並	県全体で平年より発生が多くみられた。	6月の低温・降雨により発生が助長されたと考えられる。	長期残効性の箱施用剤による防除が実施された。
穂いもち	平年：並 前年：早	平年：並 前年：並	県全体で発生は平年並であった。	葉いもちの影響で発生し始めたが、8～9月にかけて降水量は少なく、気温は平年より高めに推移したことから、多発はしなかったと考えられる。	出穂期を中心に防除が実施された。
紋枯病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	発生は平年よりやや少なかった。	紋枯病の有効成分が含まれた箱施用剤の普及により、発生が抑制されたのではないかと考えられる。	長期残効性の箱施用剤による防除が実施された。
白葉枯病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	巡回調査では発生はみられなかった。	近年発生がみられておらず、伝染源が少ないと考えられる。	長期残効性の箱施用剤による防除が実施された。
もみ枯細菌病 (もみ枯症)	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	発生は平年より少なかった。	薬剤防除により発生が抑制されたのではないかと考えられる。	長期残効性の箱施用剤による防除が実施された。
ごま葉枯病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：やや少	発生は平年より多かった。	本病は近年発生が増加傾向にある。夏期の高温や地力低下などが原因と考えられる。	土壌改良剤の施用及び薬剤散布、間断かん水がおこなわれた。
黄化萎縮病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生はみられなかった。	近年発生がみられておらず、伝染源が少ないと考えられる。	本病対象の防除は行われなかった。
ばか苗病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	巡回調査では発生はみられなかった。	種子更新及び種子消毒により、発生がみられなかったと考えられる。	種子消毒が実施されている。
稲こうじ病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	県東部地域を中心に発生が多かった。	8月の長雨の影響で発生が助長された。	本病を対象とした防除を行っていないほ場が多い。
葉しょう褐変病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生はみられなかった。	近年発生がみられておらず、伝染源が少ないと考えられる。	本病対象の防除は行われなかった。
縞葉枯病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	発生は平年より少なかった。	ヒメトビウンカによる媒介が少なかったと考えられる。	長期残効性の箱施用剤が施用された。また、縞葉枯病多発地域ではヒメトビウンカの防除の実施、抵抗性品種の導入が進められた。
萎縮病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	発生はみられなかった。	ツマグロヨコバイによる媒介が少なかったと考えられる。	長期残効性の箱施用剤が施用された。また、薬剤防除が実施された。

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ヒメトビウンカ	平年：並 前年：早い	平年：やや多 前年：多	たたき落とし調査による捕獲数は平年よりやや多かった。予察灯による誘殺数は平年より多く、特に8月上旬には平年を大きく上回った。	近年、発生量・発生面積が減少傾向にあったが、春以降の気温が平年より高かった影響により増殖が早まったと考えられる。	長期残効性箱処理剤が使用された。縞葉枯病多発地域では抵抗性品種が導入されている。
ツマグロヨコバイ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	たたき落とし調査による捕獲数は平年並であった。予察灯による誘殺数は、平年並～少なく推移したが、一部地域で7月上中旬と9月中旬の2回、発生が大きく増加し平年を大きく上回った。	近年、発生は少なく推移しており、防除を行った水田では発生が抑えられた。	長期残効性箱処理剤が使用された。
ニカメイガ	平年：遅い 前年：遅い	平年：並 前年：少	巡回調査では平年並の発生であった。予察灯およびフェロモントラップによる誘殺数は、平年並～多く推移した。	近年、発生は少なく推移していたが、飼料米等、多様な品種が防除圧の低い中で栽培されており、発生の増加が懸念される。	長期残効性箱処理剤が使用された。
セジロウンカ	平年：やや遅い 前年：やや遅い	平年：少 前年：少	たたき落とし調査による捕獲数は平年より少なかった。予察灯による誘殺数は、7月までは平年より少なく、その後8月以降の増殖により平年より多く推移した。生育期の発生が少なかったため被害はみられなかった。	飛来量が平年より少なかった。また、長期残効性箱処理剤の普及により水稻生育期前半の発生は抑制された。	長期残効性箱処理剤が使用された。
トビイロウンカ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：やや多	たたき落とし調査による捕獲数は平年よりやや少なかった。予察灯による誘殺数は、初飛来が前年同様に5月下旬と早く、6月下旬に各地で大きく増加した。7月以降は一部を除き平年並～少なく推移した。	飛来量は平年よりも多かったが、効果の高い長期残効性箱処理剤の導入、本田での適期防除により増殖が抑えられた。	本種に効果の高い長期残効性箱処理剤が使用された。また、本田における防除が実施された。
斑点米カメムシ	平年：並 前年：早い	平年：多 前年：多	5～7月の畦畔雑草すくい取り調査による捕獲数は平年より少なかったが、8～9月の水田内のすくい取り調査では平年より多かった。優占種はアカスジカスミカメで、成熟期にはミナミアオカメムシ、イネカメムシが多発した。予察灯では平年より多く誘殺された。	7月の降水量が多くカスミカメムシ類を中心に斑点米カメムシ類の発生が抑制されたが、春以降の気温が高かった影響により増殖が早まったことが考えられる。また、本田防除が徹底されない場合は発生が増加した。	本田防除が出穂期以降1～2回実施された。
イチモンジセセリ	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：多	6月から発生が確認され、8月に防除圧の低い水田や作期が遅く葉色の濃い水田で発生した。	近年、少発生で経過している。	発生地域では本田防除が実施された。
アワヨトウ	平年：一 前年：一	平年：並 前年：並	発生はみられなかった。	近年、少発生で経過している。	対象とした防除はほとんど行われていない。
コブノメイガ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：多	巡回調査では平年より少ない発生であった。	近年、少発生で経過している。	発生地域では本田防除が実施された。
イネミズゾウムシ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：少	巡回調査では平年並の発生であった。	適期防除が実施された。	長期残効性箱処理剤が使用された。
イネドロオイムシ	平年：並 前年：一	平年：少 前年：やや少	主に県東部の高冷地で発生する。巡回調査地点における被害株率は平年より少なかった。	例年、発生は常発地域のみである。	箱処理剤が使用された。
スクミリンゴガイ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：少	県内各地で発生面積が拡大している。巡回調査では、6月は平年より少なく、7月以降は概ね平年並の発生であった。	近年、分布が拡大傾向にあり、温暖化により越冬量が増加している。今作については、1～2月が低温であったため越冬量は少なかったと考えられる。	発生地では耕種的防除が実施され、一部では本田防除が実施された。
フタオビコヤガ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	巡回調査では平年より多い発生であった。	近年被害が増加傾向にある。	多発生の場合、防除が実施されることもある。

(病害虫防除所)

## (4) 稲作期間の気象概況

### ア 気温

- ・ 4月は平年より高く推移した。
- ・ 5月第1半旬は気温が低く推移した。特に最低気温が平年を大きく下回った。
- ・ 5月第2半旬から6月第1半旬は気温が高く推移した。
- ・ 6月第2半旬から第3半旬は気温がやや低く推移した。
- ・ 6月第4半旬から10月第1半旬は平年を上回る高温となった。

### イ 日照

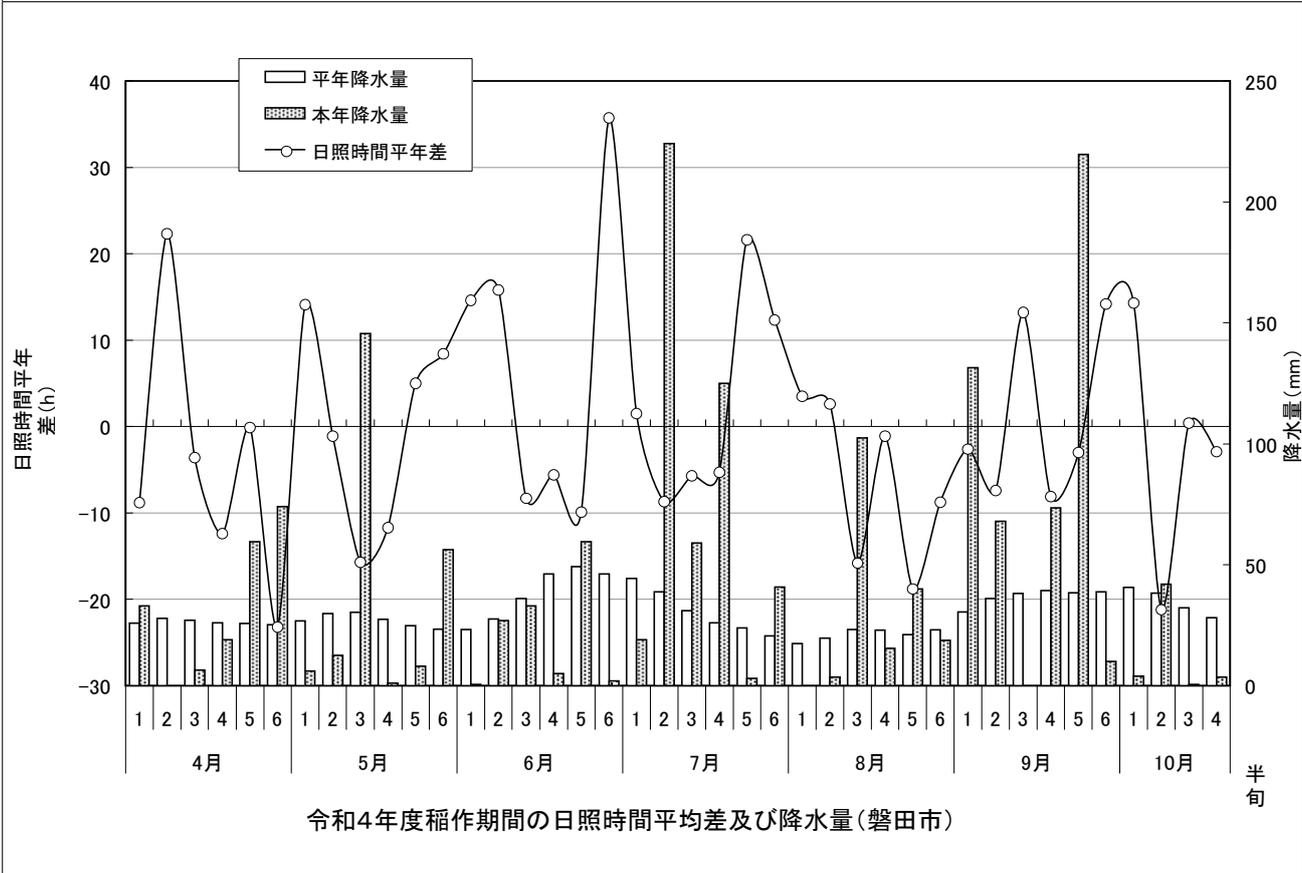
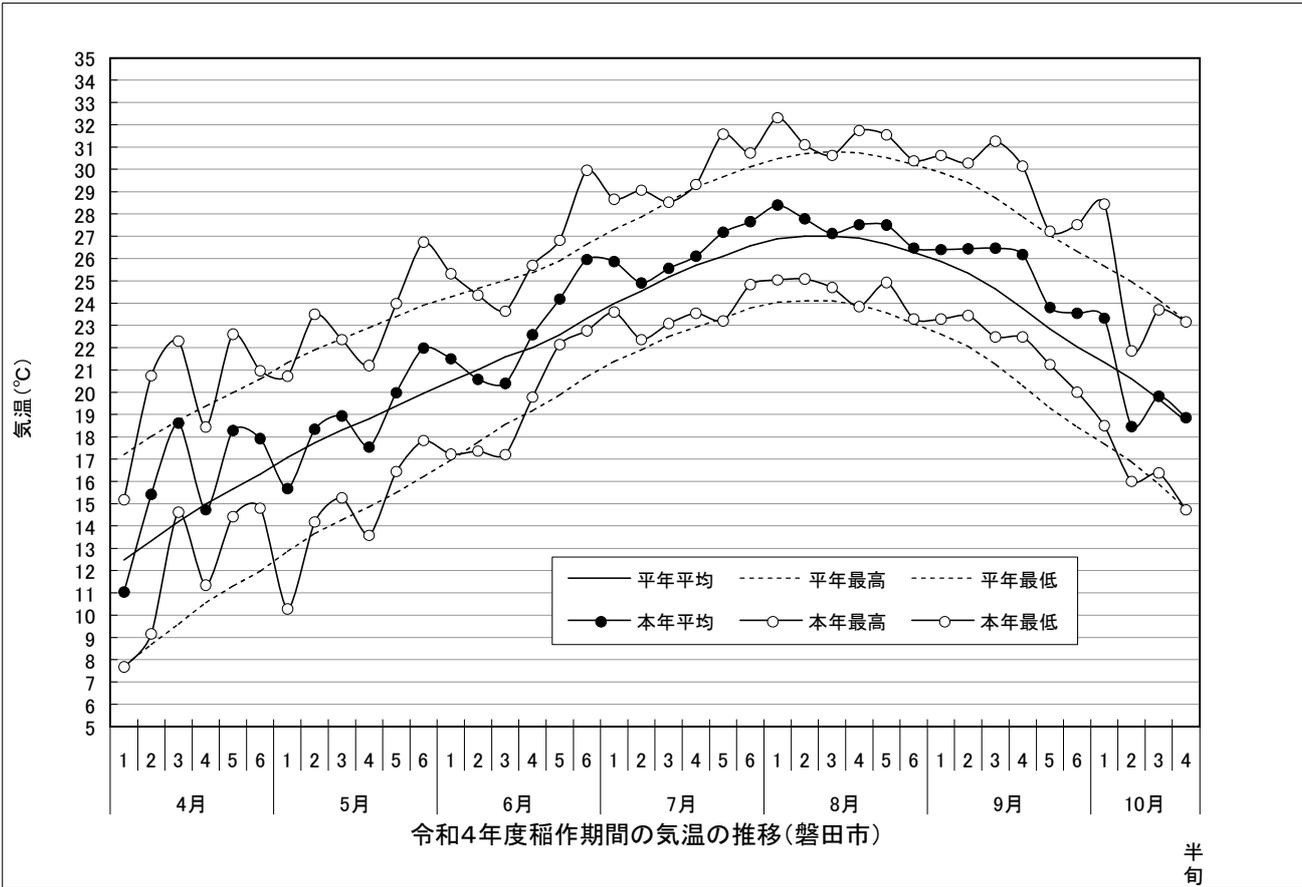
- ・ 4月の日照時間は平年よりもやや少なかった。
- ・ 5月第1半旬は平年をやや上回り、5月第2半旬から第4半旬は平年を下回った。
- ・ 5月第5半旬から8月第2半旬にかけては多照傾向で推移した。
- ・ 8月第3半旬から9月第5半旬は寡照が続いた。
- ・ 9月第6半旬以降は平年並みの日照となった
- ・ 栽培期間全体を通じた日照時間平年差はマイナス4.6時間であり平年並みであった。

### ウ 降水量

- ・ 4月の降水量は平年並であった。
- ・ 5月の降水量は第3半旬にまとまった降雨があり、やや多かった。
- ・ 6月の降水量はやや少なかった。
- ・ 東海地方の梅雨入りは、平年より8日遅い6月14日ごろ、梅雨明けは平年より4日遅い7月23日ごろであった。
- ・ 7月は、8日から10日と15日から17日にかけてまとまった降雨があったため、7月の降水量は平年比で259%となった。
- ・ 8月は、8月13日の台風8号の影響により降水量が多かった(144%)。
- ・ 9月は、9月2日の大雨と9月23日の台風15号の影響により、平年比で227%となった。
- ・ 10月の降水量は、平年よりも少なかった。
- ・ 栽培期間全体を通じた降水量は、平年比で141%と多かった。

※ 気象データの観測地は磐田地方気象観測所。

令和4年 稲作期間の気象グラフ(磐田市)



## 2 全国の稲生産状況

### (1) 令和4年産水稻の生産状況

全国・都道府県	水 稲							
	作付面積 (子実用)	10 a 当たり収量	収穫量 (子実用)	(参考) 農家等が使用しているふるい目幅で選別			参考	
				10 a 当たり収量	10 a 当たり平均収量	作況指数	主食用作付面積	収穫量(主食用)
① ha	② kg	①×② t	③ kg	④ kg	③/④	⑤ ha	⑤×② t	
全 国	1,355,000	536	7,269,000	511	512	100	1,251,000	6,701,000
北 海 道	93,600	591	553,200	563	530	106	82,500	487,600
青 森	39,600	594	235,200	567	575	99	33,900	201,400
岩 手	46,100	537	247,600	508	514	99	43,700	234,700
宮 城	60,800	537	326,500	511	512	100	57,000	306,100
秋 田	82,400	554	456,500	517	543	95	69,100	382,800
山 形	61,500	594	365,300	560	566	99	52,700	313,000
福 島	57,800	549	317,300	530	532	100	51,900	284,900
茨 城	60,000	532	319,200	509	505	101	58,300	310,200
栃 木	50,800	532	270,300	497	515	97	46,100	245,300
群 馬	14,400	502	72,300	486	482	101	12,400	62,200
埼 玉	28,600	498	142,400	484	479	101	27,400	136,500
千 葉	47,700	544	259,500	535	533	100	45,500	247,500
東 京	115	421	484	412	403	102	115	484
神 奈 川	2,880	501	14,400	481	476	101	2,880	14,400
新 潟	116,000	544	631,000	525	528	99	99,900	543,500
富 山	35,500	556	197,400	523	520	101	31,300	174,000
石 川	23,100	532	122,900	515	509	101	20,700	110,100
福 井	23,500	515	121,000	481	484	99	21,600	111,200
山 梨	4,790	532	25,500	518	532	97	4,690	25,000
長 野	30,800	608	187,300	589	599	98	29,800	181,200
岐 阜	20,700	487	100,800	477	475	100	20,000	97,400
静 岡	15,000	509	76,400	501	511	98	15,000	76,400
愛 知	25,900	505	130,800	488	490	100	25,200	127,300
三 重	25,600	511	130,800	489	478	102	25,200	128,800
滋 賀	29,000	523	151,700	487	483	101	27,700	144,900
京 都	14,000	514	72,000	497	492	101	13,400	68,900
大 阪	4,540	503	22,800	489	478	102	4,540	22,800
兵 庫	34,500	513	177,000	487	477	102	32,800	168,300
奈 良	8,410	522	43,900	512	500	102	8,350	43,600
和 歌 山	5,980	519	31,000	511	485	105	5,980	31,000
鳥 取	12,100	514	62,200	494	495	100	12,000	61,700
島 根	16,400	519	85,100	485	482	101	16,100	83,600
岡 山	28,100	524	147,200	496	500	99	27,100	142,000
広 島	21,600	530	114,500	511	508	101	21,100	111,800
山 口	17,600	526	92,600	502	480	105	16,600	87,300
徳 島	9,910	480	47,600	469	462	102	9,640	46,300
香 川	10,900	511	55,700	493	478	103	10,800	55,200
愛 媛	13,100	524	68,600	489	468	104	13,000	68,100
高 知	10,800	460	49,700	447	446	100	10,600	48,800
福 岡	33,400	491	164,000	456	456	100	32,800	161,000
佐 賀	22,800	514	117,200	479	487	98	22,300	114,600
長 崎	10,400	470	48,900	442	466	95	10,400	48,900
熊 本	31,300	501	156,800	461	479	96	30,200	151,300
大 分	18,900	493	93,200	470	476	99	18,800	92,700
宮 崎	15,400	488	75,200	474	482	98	13,400	65,400
鹿 児 島	18,000	478	86,000	460	470	98	16,600	79,300
沖 縄	639	301	1,920	293	301	97	604	1,820

(資料：農林水産統計)

注1) 作付面積(子実用)とは、青刈り面積(飼料用米等を含む。)を除いた面積である。

注2) 農家等が使用しているふるい目幅で選別された10 a 当たり収量、10 a 当たり平均収量及び作況指数については、全国農業地域の農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまで46ふるいの目幅(北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm)以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

## (2) 令和3年産都道府県別水稻うるち品種別作付状況

	1位		2位		3位		3品種計 %
	品種	%	品種	%	品種	%	
北海道	ななつぼし	50.0	ゆめぴりか	24.9	きらら397	7.9	82.8
青森	まっしぐら	80.3	つがるロマン	14.5	青天の霹靂	4.6	99.4
岩手	ひとめぼれ	72.2	あきたこまち	15.2	いわてっこ	5.5	92.8
宮城	ひとめぼれ	73.9	つや姫	8.7	ササニシキ	6.8	89.4
秋田	あきたこまち	78.2	ひとめぼれ	7.8	めんこいな	6.8	92.8
山形	はえぬき	62.0	つや姫	16.0	ひとめぼれ	6.8	84.7
福島	コシヒカリ	53.5	天のつぶ	19.9	ひとめぼれ	19.6	93.0
茨城	コシヒカリ	73.3	あきたこまち	12.7	あさひの夢	4.2	90.2
栃木	コシヒカリ	66.8	とちぎの星	15.7	あさひの夢	11.6	94.1
群馬	あさひの夢	45.8	コシヒカリ	23.6	ひとめぼれ	12.7	82.2
埼玉	コシヒカリ	31.5	彩のかがやき	29.8	彩のきずな	22.1	83.4
千葉	コシヒカリ	56.5	ふさこがね	24.3	ふさおとめ	12.1	93.0
神奈川	はるみ	61.6	キヌヒカリ	22.2	さとじまん	9.9	93.7
新潟	コシヒカリ	69.5	こしいぶき	18.3	ゆきん子舞	4.9	92.7
富山	コシヒカリ	73.3	てんたかく	11.3	てんこもり	7.5	92.2
石川	コシヒカリ	63.1	ゆめみづほ	22.0	ひやくまん穀	7.5	92.6
福井	コシヒカリ	48.2	ハナエチゼン	26.6	あきさかり	9.9	84.7
山梨	コシヒカリ	73.4	ヒノヒカリ	8.1	あさひの夢	4.1	85.6
長野	コシヒカリ	79.0	あきたこまち	10.5	風さやか	5.9	95.4
岐阜	ハツシモ	38.5	コシヒカリ	33.6	ほしじるし	7.6	79.8
静岡	コシヒカリ	43.0	きぬむすめ	18.1	あいちのかおり	11.3	72.4
愛知	あいちのかおり	40.4	コシヒカリ	23.4	ミネアサヒ	5.7	69.5
三重	コシヒカリ	74.6	キヌヒカリ	9.3	あきたこまち	2.7	86.7
滋賀	コシヒカリ	37.7	キヌヒカリ	21.6	みずかがみ	11.6	71.0
京都	コシヒカリ	54.0	キヌヒカリ	21.0	ヒノヒカリ	20.1	95.2
大阪	ヒノヒカリ	70.9	キヌヒカリ	13.7	きぬむすめ	9.5	94.1
兵庫	コシヒカリ	43.4	ヒノヒカリ	22.5	キヌヒカリ	16.6	82.5
奈良	ヒノヒカリ	73.8	ひとめぼれ	9.7	コシヒカリ	8.2	91.7
和歌山	キヌヒカリ	44.0	きぬむすめ	20.2	コシヒカリ	9.9	74.1
鳥取	コシヒカリ	37.0	きぬむすめ	28.2	ひとめぼれ	20.7	85.9
島根	コシヒカリ	52.7	きぬむすめ	32.3	つや姫	8.4	93.4
岡山	アケボノ	18.8	コシヒカリ	17.0	きぬむすめ	16.6	52.5
広島	コシヒカリ	44.4	あきさかり	17.9	ヒノヒカリ	11.9	74.2
山口	コシヒカリ	29.0	ひとめぼれ	22.9	ヒノヒカリ	19.4	71.4
徳島	コシヒカリ	52.9	あきさかり	28.3	キヌヒカリ	7.2	88.4
香川	コシヒカリ	39.3	ヒノヒカリ	30.4	あきさかり	13.2	82.8
愛媛	コシヒカリ	33.9	ヒノヒカリ	28.5	あきたこまち	17.0	79.4
高知	コシヒカリ	52.4	ヒノヒカリ	29.2	にこまる	5.9	87.5
福岡	夢つくし	41.0	ヒノヒカリ	30.8	元気つくし	19.2	91.0
佐賀	夢しずく	33.1	さがびより	28.8	ヒノヒカリ	24.3	86.2
長崎	ヒノヒカリ	48.9	にこまる	19.6	なつほのか	17.0	85.5
熊本	ヒノヒカリ	54.5	森のくまさん	13.6	コシヒカリ	11.0	79.1
大分	ヒノヒカリ	76.2	ひとめぼれ	10.9	つや姫	3.8	90.9
宮崎	ヒノヒカリ	59.2	コシヒカリ	35.0	おてんとそだち	1.6	95.8
鹿児島	ヒノヒカリ	63.5	コシヒカリ	13.1	あきほなみ	11.2	87.9
沖縄	ひとめぼれ	77.6	ちゅらひかり	14.1	ミルクィーサマー	2.0	93.7

(資料:(公社)米穀安定供給確保支援機構)

注) 四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

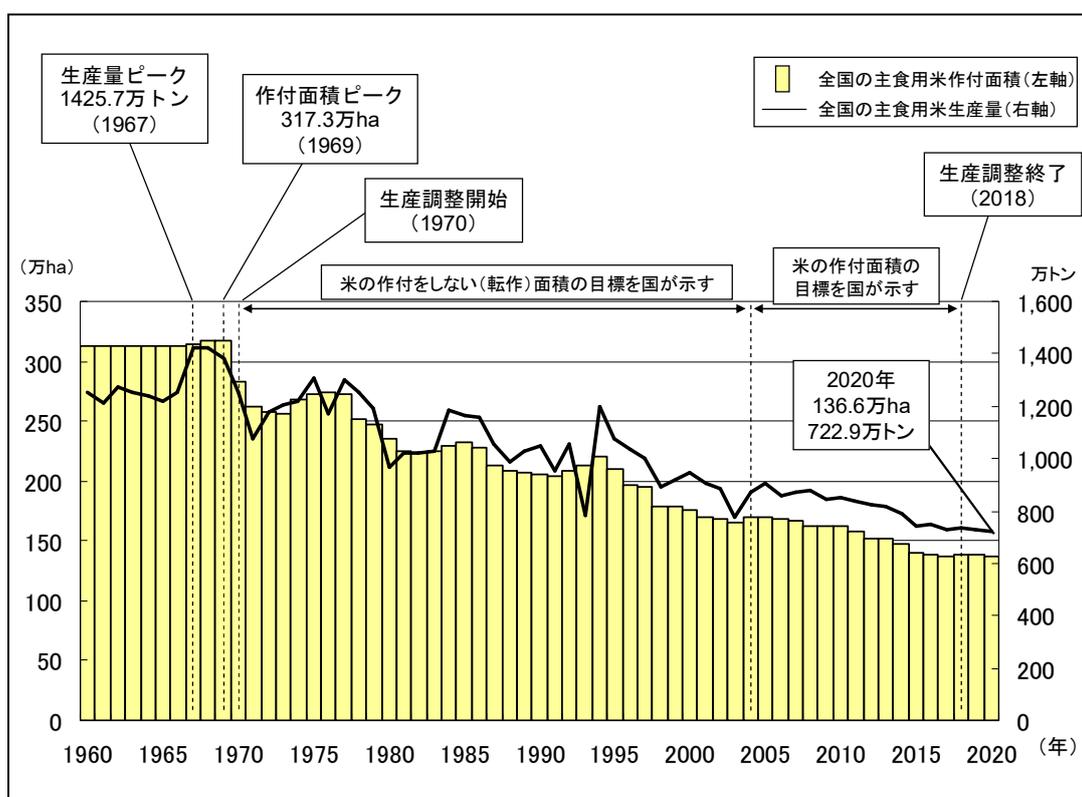
## 4 米の需給状況

### (1) 需給の推移 (全国)

米は、戦後から作付面積の拡大と反収の向上により生産量を拡大し続け<sup>\*</sup>、1967年に自給を達成した。それ以降、米の需給均衡を図るため、生産調整が1970年から開始され、当初は国から米の作付をしない面積（転作面積）が示されていたが、2004年からは米の作付面積の目標が示されている。作付目標の設定は2017年度で終了し、2018年度からは、生産者の判断に基づき、需要に応じた米生産の推進を図ることとなった。

※水稲の作付面積 1945年：280万ha、1967年：315万ha

水稲の反収 1945年：208kg/10a、1967年：453kg/10a



資料：農林水産統計

### (2) 需給状況 (全国) (四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある)

#### ア 作柄

令和4年産の全国の水稲の単収は536kg/10a、県内では509kg/10aであった。農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は、全国では100、静岡県では98であった。

収穫量（子実用）は全国が7,269,000トン（前年産比-294,000トン）、静岡県が76,400トン（前年産比+1,000トン）であった。

## イ 需給見通し

### (ア) 令和3/令和4年の需要実績

令和3/令和4年の主食用米等の需要実績は702万トンで、令和2/令和3年の需要実績(704万トン)を2万トン下回った。

### (イ) 令和4/5年及び令和5/6年の需給見通し

#### a 令和4/5年の需給見通し

令和3年6月末の民間在庫量は218万トンであり、令和3年産主食用米等の生産量は、701万トンであることから、令和3/4年の主食用米等の供給量の合計は919万トンとなる。

また、令和4/5年の需要量見通しは「一人当たり消費量×人口」のトレンドにより計算<sup>\*</sup>され、691万トンと試算される。ただし、令和4年産米の相対取引価格が令和3年産米より上昇していることによる需要量への影響等を踏まえて、6万トンの幅をもって設定し、需要量見通しは691～697万トンと想定している。

以上のことから、令和5年6月末の民間在庫量は191万トンから197万トンと見通される。

<sup>\*</sup>需要量見通しは平成8/9年からの需要実績を用いたトレンド(回帰式)で算出していたが、平成20年から人口が減少し始め、一人当たり消費量の減少に人口減少が加わり、需要量の減少がより大きくなったことから、見通しと実績に乖離が生じるようになった。そこで、令和元年度から、「一人当たり消費量×人口」によりトレンドを算出する方法へ変更となった。

#### 令和4/5年の主食用米等の需給見通し (単位:万トン)

		主食用米等
令和4年6月末民間在庫量	A	218
令和4年産主食用米等生産量	B	670
令和4/5年主食用米等供給量計	C=A+B	888
令和4/5年主食用米等需要量	D	691～697
令和5年6月末民間在庫量	E=C-D	191～197

注:「令和4/5年」とは、令和4年7月から令和5年6月までの1年間。

#### b 令和5/6年の需給見通し

令和5年6月末の民間在庫量はaから191～197万トンと見通される。また、令和5/6年の需要量見通しはトレンドから680万トンと試算される。そこで、令和4年産と同水準の作付面積として生産量を設定しても、669万トンと需要量を11万トン下回ることから、生産量は699万トンと設定する。以上のことから、令和5/6年の主食用米等の供給量は860万トン～866万トンと試算される。

以上のことから、令和6年6月末の民間在庫量は180万トンから186万トンと見通される。

令和5/6年の主食用米等の需給見通し (単位:万トン)

		主食用米等
令和5年6月末民間在庫量	A	191～197
令和5年産主食用米等生産量	B	669
令和5/6年主食用米等供給量計	C=A+B	860～866
令和5/6年主食用米等需要量	D	680
令和6年6月末民間在庫量	E=C-D	180～186

(ウ) 生産数量目標

生産数量目標/需要量の目安の推移

年産	生産数量目標		需要量の目安※			
	H28/29	H29/30	H30/R元	R元/2	R2/3	R3/4
全国 (万t)	743	735	735	727	717	693
静岡県 (t)	82,037	81,153	81,153	79,054	77,310	76,122

※需要量の目安は、県農業再生協議会経営所得安定対策推進部会において、当初に示した数値

### (3) 需給状況（静岡県）

静岡県における令和4年産主食用米の需要量は202,388トンと見込まれる。一方、県内の主食用米生産量は76,400トンであり、需要量との差分である126,449トンは県外からの移入で賄われていると推定される。

県内生産76,400トンのうち、JA静岡経済連及び各農業協同組合への集荷が21,768トン、それ以外への集荷が54,632トンである。

なお、JA静岡経済連集荷以外の集荷54,632トンのうち、2,074トンが農家で自家消費されていると仮定すると、残りの52,558トンが農家直売等で消費されたと推定される。

県内主食用需要見込（令和4年産） **202,388 トン**

【内訳】

JA 静岡経済連及び 各農協集荷以外 (25.0%)	JA 静岡経済連及び 農協集荷 (12.7%)	県外からの移入 (62.3%)
農家消費 2,074 トン 農家直販等 48,602 トン		
県内生食用生産量 (37.7%)		

四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

<算出根拠>

- 県内生食用米生産量 76,400 トン（農林水産統計）
- JA静岡経済連及び農協集荷量 21,768 トン [農産物検査結果(令和5年3月末)]

$$\begin{array}{l} \text{全国平均消費量} \times \text{静岡県人口} \\ 51.5\text{kg} \quad \times 3,568,563 \text{人} \end{array}$$

- 県内需要見込 = 精米消費量 / 換算率

$$202,849 \text{ トン} = 183,781 \text{ トン} / 0.906$$

$$\begin{array}{l} \text{(販売農家)} \\ \text{県内農家人口} / \text{県内総農家戸数} \\ 66,322 \text{ 人} / 25,938 \text{ 戸} \end{array}$$

$$\begin{array}{l} \text{田のある経営体数} \times \text{県内農家人口} / \text{戸} \\ 15,753 \text{ 戸} \times 2.5569 \text{ 人} \end{array}$$

- 農家消費 = 水稻農家人口 × 全国平均消費量

$$2,074 \text{ トン} = 40,279 \text{ 人} \times 51.5\text{kg}$$

- 農家直売等 = 県内生産量 - JA静岡経済連及び各農協集荷実績 - 農家消費

$$52,558 \text{ トン} = 76,400 \text{ トン} - 21,768 \text{ トン} - 2,074 \text{ トン}$$

- (注)
- ・ 玄米から精米の換算率を90.6%と仮定
  - ・ 消費量は食料需給表より(令和5年3月公表)
  - ・ 静岡県推計人口は「統計センターしずおか」より(令和5年3月1日現在)
  - ・ 県内生産量は農林水産統計(令和4年産水陸稲の収穫量)より
  - ・ 県内販売農家人口、農家数、田のある経営体数は2020年農林業センサスより

## (4) 消費量の推移(全国)

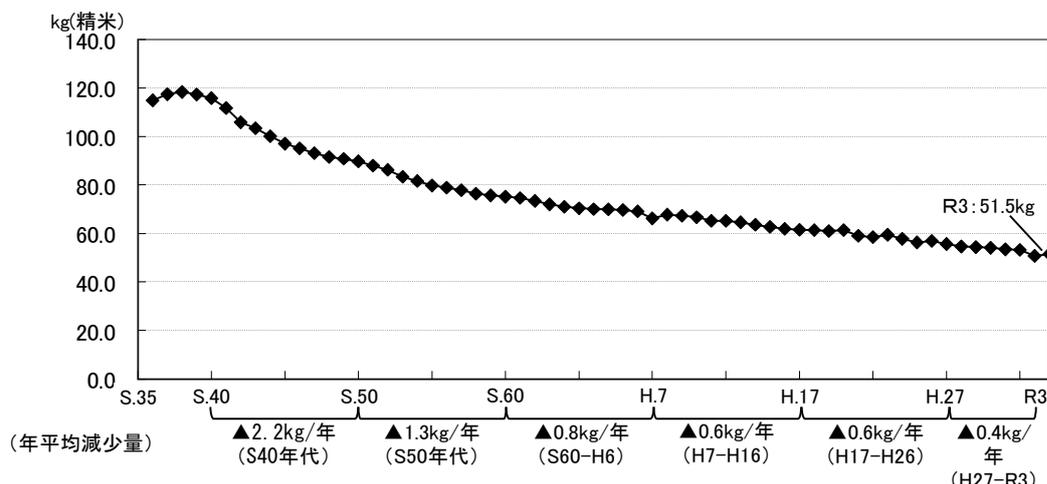
昭和35年度からの米の1人1年当たり消費量推移

年度	1人1年 当たり数量 (kg)	増減率(%)
昭和35	114.9	-
40	111.7	▲ 2.8
45	95.1	▲ 14.9
50	88.0	▲ 7.5
55	78.9	▲ 10.3
60	74.6	▲ 5.4
平成元	70.4	▲ 5.6
5	69.1	▲ 1.8
10	65.2	▲ 5.6
15	61.9	▲ 5.1
20	59.0	▲ 4.7

年度	1人1年 当たり数量 (kg)	増減率(%)
21	58.5	▲ 0.8
22	59.5	▲ 1.7
23	57.8	▲ 2.9
24	56.3	▲ 2.6
25	56.9	▲ 1.1
26	55.2	▲ 3.0
27	54.6	▲ 1.1
28	54.4	▲ 0.4
29	54.1	▲ 0.6
30	53.5	▲ 1.1
令和元	53.2	▲ 0.6
2	50.8	▲ 4.5
3	51.5	▲ 1.4

資料：農林水産省「食料需給表」

注) 年間の国内の食糧消費用として仕向けられた数量を総人口で除した値であり、飼料用、種子用、加工用(酒類、みそ等)の米は含まない。  
なお、加工米飯、もち、米菓、米穀粉は含まれる。



米の1人1年当たり消費量は昭和37年度の118.3kgをピークにはほぼ一貫して減少している。減少の理由としては、多様な食文化・料理が浸透したことや、手間がかかる炊飯作業を敬遠し手軽に食べられるパンや麺の消費が増加したことなどが挙げられている。消費量は米の作況や価格により影響を受けるが、近年は概ね年1%弱ずつ減少している。前年度大幅な下落があったことから、令和2年度から3年度は1.4%増となり、消費量回復の傾向が見受けられる。

#### 4 令和3年度経営所得安定対策等交付実績

(単位：件、千円)

市町名	水田活用の 直接支払交付金		畑作物の 直接支払交付金		収入減少影響 緩和交付金		合計	
	件数	交付額	件数	交付額	件数	交付額	件数※	交付額
下田市	5	106					5	106
東伊豆町	0	0						
河津町	0	0						
南伊豆町	14	1,153					14	1,153
西伊豆町	0	0						
三島市	18	9,561					18	9,561
伊豆市	0	0						
伊豆の国市	169	4,797					169	4,797
函南町	11	343					11	343
沼津市	8	241					8	241
御殿場市	47	24,004	8	4,912			55	28,916
裾野市	47	1,575	9	3,535			56	5,110
小山町	35	3,036					35	3,036
富士宮市	34	11,763					34	11,763
富士市	28	983					28	983
静岡市	56	15,045					56	15,045
島田市	130	22,217					130	22,217
焼津市	109	43,116					109	43,116
藤枝市	166	21,095					166	21,095
牧之原市	94	17,133					94	17,133
吉田町	44	11,623					44	11,623
川根本町	0	0					0	0
掛川市	35	319,260	13	37,505			48	356,765
御前崎市	41	12,008					41	12,008
菊川市	52	93,590	13	13,002			65	106,592
森町	89	98,697					89	98,697
磐田市	92	334,758	7	7,160			99	341,918
袋井市	77	667,835	39	162,774			116	830,609
浜松市	22	16,223	3	350			25	16,573
湖西市	0	0					0	0
県計	1,423	1,730,162	92	229,238			1,515	1,959,400

令和3年度は交付実績なし

※交付金間で重複している場合を除いている。

## 5 お米日本一コンテスト in しずおかの開催

### (1) 第19回お米日本一コンテスト in しずおか (令和4年度)

#### ア 出品申込

##### 都道府県別出品数 (33道府県)

県名	静岡県	茨城県	長野県	新潟県	山形県	群馬県	高知県	鳥取県
出品数	109	74	55	55	26	25	28	13
県名	岐阜県	岩手県	山梨県	滋賀県	佐賀県	島根県	奈良県	栃木県
出品数	23	12	12	6	5	9	5	7
県名	三重県	鹿児島	福井県	京都府	兵庫県	宮城県	石川県	岡山県
出品数	6	3	3	4	3	9	5	2
県名	徳島県	北海道	秋田県	広島県	愛媛県	福島県	千葉県	埼玉県
出品数	3	4	7	6	4	11	3	1
県名	山口県							
出品数	1							

##### 品種別出品数 (49品種)

品種名	コシヒカリ	ミルククイーン	にこまる	ゆうだい21	きぬむすめ	ひとめぼれ	いのちの壳
出品数	285 (うちBL24)	38	34	38	29	14	12
品種名	つや姫	ササニシキ	歓喜の風	夢ごこち	風さやか	金色の風	新之助
出品数	9	7	6	5	4	4	4
品種名	農林48号	星空舞	あきたこまち	縁結び	さがびより	にじのきらめき	ひめの凜
出品数	4	4	3	2	2	2	2
品種名	雪若丸	夢しずく	ゆめぴりか	あいちのかおり	あきさかり	あきほなみ	あきまつり
出品数	2	2	2	1	1	1	1
品種名	あきまるん	彩のかがやき	サキホコレ	ささしぐれ	十和	たきたて	つぶぞろい
出品数	1	1	1	1	1	1	1
品種名	てんこもり	東北194号	なつほのか	農林1号	能登ひかり	ハツシモ	ひのひかり
出品数	1	1	1	1	1	1	1
品種名	ひやくまん穀	ふっくりんこ	ほしじるし	みどり豊	結びの神	山形95号	ゆきさやか
出品数	1	1	1	1	1	1	1

## イ 審査日程

区 分	方 法
機器審査 11月7日(月) ～16日(火)	○3社(株)サタケ、静岡製機(株)、東洋ライス(株)の食味評価機器による評価結果により上位75点を選出 ○75点については栽培履歴を確認し、農薬取締法等の遵守を確認
最終審査 12月10日(土) 11日(日)	○食味官能審査で上位入賞者を選出し、各賞を決定 10日(1回戦)で30点を選出 11日(2回戦、準決勝、決勝)トーナメント方式で上位入賞者を選出し、各賞を決定 ○審査員:米・食味鑑定士、お米マイスター、お米アドバイザー等 計15名

## ウ 表彰

最終審査1回戦を通過した30点を全て金賞以上とし、以下の各賞を決定

区 分	基 準
実行委員会会長賞(特別最高金賞)	最高金賞のうち最上位
最高金賞	決勝に残った上位6点(特別最高金賞を含む)
静岡県知事賞	静岡県産のうち最上位

## (2) お米日本ーコンテストinしずおか開催概要

	2005年 (第2回)	2006年 (第3回)	2007年 (第4回)	2008年 (第5回)	2009年 (第6回)	2010年 (第7回)	2011年 (第8回)	2012年 (第9回)	2013年 (第10回)
出品数	257	315	396	359	387	397	378	422	452
うち県内出品数	61	83	69	84	68	84	79	82	96
東部地区	22	32	35	36	37	38	37	32	48
中部地区	10	14	9	14	9	13	7	6	11
西部地区	29	37	25	34	22	33	35	44	37
都道府県数	34	37	40	36	38	36	32	35	41
県内市町数	17	14	12	12	14	15	14	11	15
品種数	21	22	28	20	28	34	30	36	45

	2014年 (第11回)	2015年 (第12回)	2016年 (第13回)	2017年 (第14回)	2018年 (第15回)	2019年 (第16回)	2020年 (第17回)	2021年 (第18回)	2022年 (第19回)
出品数	504	587	497	522	580	601	597	439	539
うち県内出品数	103	100	93	105	137	125	129	93	109
東部地区	44	41	34	44	67	58	68	56	60
中部地区	21	10	10	12	10	16	11	7	12
西部地区	38	49	49	49	60	51	50	30	37
都道府県数	36	39	38	36	37	37	34	33	33
県内市町数	18	16	12	14	15	15	16	11	13
品種数	46	54	49	43	50	54	55	55	49

### (3) 上位入賞者

開催年	賞名	氏名	住所	品種名
2004年 (第1回)	国際コメ年日本委員会長賞	鈴木紀生	山形県藤島町	コシヒカリ
	国際コメ年日本委員会長賞	阿部助次(真室川町良質米生産組合)	山形県真室川町	コシヒカリ
	静岡県知事賞	勝亦慶徳	静岡県御殿場市	コシヒカリ
2005年 (第2回)	最優秀賞	佐藤和久(佐藤ファーム)	山形県米沢市	コシヒカリ
	優良賞、静岡県知事賞	湯山泰政(JA御殿場部農会)	静岡県小山町	コシヒカリ
2006年 (第3回)	最優秀賞	大久保憲治	茨城県大子町	コシヒカリ
	静岡県知事賞	遠藤貴夫(JA御殿場特別栽培米出荷組合)	静岡県小山町	コシヒカリ
2007年 (第4回)	最優秀賞	只浦義弘	福島県喜多方市	コシヒカリ
	静岡県知事賞	瀬戸孝雄(JA御殿場)	静岡県御殿場市	コシヒカリ
2008年 (第5回)	最優秀賞	久保豊範	新潟県加茂市	コシヒカリBL
	静岡県知事賞	瀬戸孝雄(JA御殿場部農会)	静岡県御殿場市	コシヒカリ
2009年 (第6回)	最優秀賞	長谷川けい子(川場村雪ほたか生産組合)	群馬県川場村	コシヒカリ
	静岡県知事賞	渡辺豊臣(JA御殿場御殿場地区部農会)	静岡県御殿場市	コシヒカリ
2010年 (第7回)	最優秀賞	田岡清(本山町特産品ブランド化推進協議会)	高知県本山町	にこまる
	静岡県知事賞	小畑幸治(JA大井川焼津地域稲作部会)	静岡県焼津市	コシヒカリ
2011年 (第8回)	最優秀賞	盛田守(みなかみの里生産研究部会)	茨城県城里町	コシヒカリ
	静岡県知事賞	寺田隆雄(静岡県稲作研究会)	静岡県袋井市	コシヒカリ
2012年 (第9回)	実行委員会会長賞(特別最高金賞)	田中敬二(板仕野の米の会)	兵庫県香美町	コシヒカリ
	静岡県知事賞	田代雅夫(JA御殿場部農会)	静岡県御殿場市	コシヒカリ
2013年 (第10回)	実行委員会会長賞(特別最高金賞)	林正輝(みなかみ町水月夜生産組合)	群馬県みなかみ町	コシヒカリ
	静岡県知事賞	村松哲彦(JAおおいがわ焼津地域稲作部会)	静岡県焼津市	きぬむすめ
2014年 (第11回)	実行委員会会長賞(特別最高金賞)	佐藤嘉一(農事組合法人ファームステーション木島 代表)	長野県飯山市	コシヒカリ
	静岡県知事賞	塚本寿夫(JAおおいがわ焼津地域稲作部会)	静岡県焼津市	コシヒカリ
2015年 (第12回)	実行委員会会長賞(特別最高金賞)	片岡源造(宮内商店稲作部会)	高知県四万十町	にこまる
	静岡県知事賞	瀬戸孝雄(JA御殿場エコ栽培米出荷組合)	静岡県御殿場市	コシヒカリ
2016年 (第13回)	実行委員会会長賞(特別最高金賞)	本山町特産品ブランド化推進協議会 本山町農業公社	高知県本山町	にこまる
	静岡県知事賞	浜北米人達 野末典秀	静岡県浜松市	きぬむすめ
2017年 (第14回)	実行委員会会長賞(特別最高金賞)	合資会社源丸屋ファーム 曾我康弘	岐阜県下呂市	いのちの壺
	静岡県知事賞	浜北米人達 株式会社榮 桑原成有	静岡県浜松市	きぬむすめ
2018年 (第15回)	実行委員会会長賞(特別最高金賞)	合資会社源丸屋ファーム 曾我康弘	岐阜県下呂市	いのちの壺
	静岡県知事賞	遠藤博雄	静岡県小山町	きぬむすめ
2019年 (第16回)	実行委員会会長賞(特別最高金賞)	Faith Farm 水野尚哉	長野県飯山市	コシヒカリ
	静岡県知事賞	JA御殿場 青壮年部高根支部	静岡県御殿場市	コシヒカリ
2020年 (第17回)	実行委員会会長賞(特別最高金賞)	JA御殿場 青壮年部高根支部	静岡県御殿場市	コシヒカリ
	静岡県知事賞	JA御殿場 青壮年部高根支部	静岡県御殿場市	コシヒカリ
2021年 (第18回)	実行委員会会長賞(特別最高金賞)	(株)みつわ農園	岐阜県飛騨市	コシヒカリ
	最高金賞	JA御殿場部農会 岩田 英徳	静岡県御殿場市	コシヒカリ
	最高金賞	JA常陸みなかみの里生産研究部会 盛田 守	茨城県東茨城郡城里町	コシヒカリ
	最高金賞	JA常陸みなかみの里生産研究部会 古滝 初男	茨城県東茨城郡城里町	コシヒカリ
	最高金賞	渡邊 信太郎	山形県西村山郡河北町	ゆうだい21
	最高金賞	株式会社まつえんどん	新潟県南魚沼市	コシヒカリ
	静岡県知事賞	JA御殿場部農会 岩田 英徳	静岡県御殿場市	コシヒカリ
2022年 (第19回)	実行委員会会長賞(特別最高金賞)	(有)源丸屋 河村秀樹	岐阜県下呂市	コシヒカリ
	最高金賞	米の匠みのりガーデン 五十嵐成生	山形県新庄市	コシヒカリ
	最高金賞	(株)米風土鳥取 長尾達也	鳥取県日野郡	ゆうだい21
	最高金賞	小見山 益彦	静岡県御殿場市	歓喜の風
	最高金賞	御殿場・小山エコ栽培米出荷組合 遠藤 博雄	静岡県御殿場市	コシヒカリ
	最高金賞	茅野 純和	長野県北安曇郡	コシヒカリ
	静岡県知事賞	小見山 益彦	静岡県御殿場市	歓喜の風

## 6 「にじのきらめき」の来歴及び特性の概要

### (1) 「にじのきらめき」の来歴

「にじのきらめき」は、多収で高温登熟耐性が優れる「西南136号」(のちの「なつほのか」)を母に、縞葉枯抵抗性を有する「北陸223号」を父とし、平成21年夏に農研機構中央農研センター 北陸拠点(新潟県 上越市)において交配した後代から育成された。

平成21年～平成22年にF<sub>1</sub>～F<sub>3</sub>を温室内などで養成、平成23にF<sub>4</sub>で個体選抜を行い、以後は系統育種法により選抜固定を行った。

平成25年F<sub>6</sub>より「収9390」の系統番号を付与し、育成地において生産力検定試験や特性検定試験等に供試した。平成27年F<sub>8</sub>より「北陸263号」の系統名を付与し、各県の奨励品種決定試験等への種子配布を行い、地域適応性を検討してきた。

その後、各地域で優れた特性を示し、普及が見込まれたことから、平成30年に「にじのきらめき」の名で品種登録された。

### (2) 「にじのきらめき」の本県での試験結果

本県では、配布開始初年度の平成27年より奨励品種決定試験に供試した。平成27年～平成28年の2年間で予備調査に供試したところ、本県においても優れた特性を示したことから、平成29年より本調査に編入した。

本調査では、平成29年～令和2年の4年間に渡って供試した。平成30年より、現地試験などのより詳細な調査を行ったところ、所内試験と同様に優れた特性を示し、「キヌヒカリ」よりも優れていることが確認できた。このことから、奨励品種候補として有望であるとの結論に至り、令和2年冬に「奨励品種候補」と判定した。

### (3) 「にじのきらめき」の系譜



#### (4) 「にじのきらめき」の特性

(農林技術研究所 H30～R2 の早期栽培試験結果と育成地情報に基づく)

- ① 「キヌヒカリ」と同じ早生熟期で、出穂期は3日程度早く、成熟期はほぼ同日であるため、「キヌヒカリ」より登熟期間が数日長い。
- ② 稈長は66cm程度で「キヌヒカリ」より約11cm短い。  
穂長は20cm程度で、「キヌヒカリ」より約2cm長い。  
穂数は、標肥で390本/m<sup>2</sup>程度、多肥で425本/m<sup>2</sup>程度で「キヌヒカリ」より30本/m<sup>2</sup>程度多い。  
草型は、穂数と穂長のバランスがとれた'中間型'に属する。
- ③ 稈質は「中」、稈の太さは「中」で、それぞれ「キヌヒカリ」と同等である。  
耐倒伏性は「キヌヒカリ」と同様に優れる。
- ④ 玄米千粒重は23.1g程度とやや大きい。白未熟粒の発生が少なく、玄米外観品質は「キヌヒカリ」より明らかに優れる。
- ⑤ 収量は、標肥栽培・多肥栽培ともに「キヌヒカリ」より12%程度多い。標肥の精玄米重は、59.0kg/a程度である。
- ⑥ 高温登熟耐性は'やや強'で、「キヌヒカリ」の'やや弱'よりかなり優れる。
- ⑦ 穂発芽性は'難'で、「キヌヒカリ」の'やや易'よりかなり優れる。
- ⑧ いもち病抵抗性の推定遺伝子型は'*Pia, Pii*'で、ほ場抵抗性は、葉いもちが'中'、穂いもちが'強'であり「キヌヒカリ」より優れる。
- ⑨ 縞葉枯病抵抗性を有する。(「キヌヒカリ」は'罹病性')
- ⑩ 食味は極良食味米である「キヌヒカリ」と同等以上で、良好である。

#### (5) 栽培上の留意点

- ① 穂発芽性は'難'で、種子の休眠が深い傾向がある。浸種時の積算水温(水温×日数)の目安は、120℃程度とする。水温15℃前後の場合、「にじのきらめき」は「コシヒカリ」より1日程、浸種時間を長くする。
- ② 葉いもちの抵抗性は'中'であるため、必要に応じて防除を適切に行う。
- ③ 白葉枯病抵抗性は「やや弱」で白葉枯病に弱いため、本病の常発地では箱施用剤の使用や本田防除を徹底する。

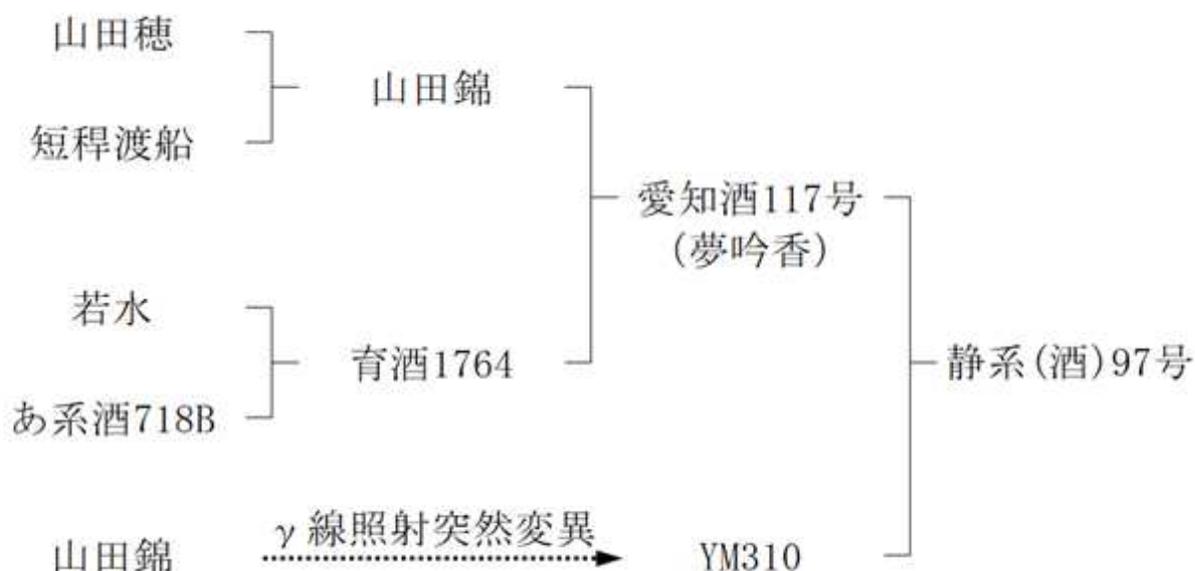
## 「令和誉富士」の来歴及び特性の概要

### 1 「令和誉富士」の来歴

「令和誉富士」は、愛知酒 117 号（のちの「夢吟香」）を母に、山田錦  $\gamma$  線照射突然変異系統の YM310 を父とし、平成 20 年 8 月に静岡県農林技術研究所栽培技術部土地利用型研究（磐田市三ヶ野・当時）において交配した後代から集団育種法により育成した。

平成 20～21 年に F<sub>1</sub> を温室内で養成、平成 21 年に F<sub>2</sub> 採種を行い、平成 22 年～23 年に集団採種により F<sub>3</sub>～F<sub>4</sub> の世代で遺伝的な固定を進めた。平成 24 年に F<sub>5</sub> 世代で個体選抜を、平成 25 年に系統選抜を行い、以後、系統育種法により選抜と遺伝的純度の固定を行った。平成 26 年 F<sub>7</sub> 世代から「S1010-1」の系統番号で生産力検定試験に、平成 27 年 F<sub>8</sub> 世代から奨励品種決定試験予備調査に供試し、平成 29 年 F<sub>10</sub> 世代からは「静系（酒）97 号」の系統名で奨励品種決定試験本調査に編入して優れた特性を示したことから、令和 4 年 1 月に品種登録出願を行い、同年 3 月に奨励品種に採用された。

### 2 「令和誉富士」の系譜



### 3 「令和誉富士」の特性

(農林技術研究所 H27～R3 年の試験結果と R2・3 年の現地試験結果に基づく)

#### (1) 出穂期及び成熟期

- ・出穂・成熟期は「誉富士」より 1 日程度遅い晩生熟期である。
- ・6 月 1 日前後の移植で 8 月 25 日頃に出穂期、10 月 3 日頃成熟期に達する。

#### (2) 草型

- ・稈長は「誉富士」より約 14cm 長く、穂長は約 1.6cm 短く、穂数はほぼ同じであり、草型は“中間型”に属する。

#### (3) 収量性

- ・所内試験における収量は、「誉富士」対比では標肥栽培で 111%、多肥栽培で 116% 程度であり、「誉富士」より優れる。標肥栽培の精玄米重は、45.8 kg/a 程度である。
- ・現地試験においても、収量は「誉富士」対比 104～176%と優れた。
- ・粒厚の厚い粒の割合が「誉富士」より多く、屑米が少ない。

#### (4) 成熟期の特性

- ・脱粒性は「誉富士」と同程度の“難”である。

#### (5) 品質

- ・玄米千粒重は 28 g 程度で、「誉富士」と同様に玄米は大きい。
- ・玄米外観品質は光沢が優れるため、「誉富士」より優れる。
- ・低い方が上質の酒造が可能とされる玄米タンパク質含量は、「誉富士」より多いものの、「山田錦」と同程度である。

#### (6) 障害抵抗性及び耐病性

- ・稈質は「誉富士」と比較して柔らかく、長稈であるため耐倒伏性は「誉富士」よりやや劣るものの、多肥栽培においても倒伏程度は軽微である。
- ・穂発芽性は“やや難”で、「誉富士」よりも優れる。
- ・「誉富士」と同様に葉いもちに弱い。

#### (7) 醸造適性

- ・心白の発現頻度及び大きさは、「誉富士」と「山田錦」の中間程度である。
- ・玄米横断面の形状は、精米時に碎米になり難いとされる線状が多く、精米率や碎米率などの精米特性は、「誉富士」及び「山田錦」並に優れ、高度精白が可能と考えられる。

#### (8) 官能評価

- ・官能評価は「誉富士」と同様に優れる。